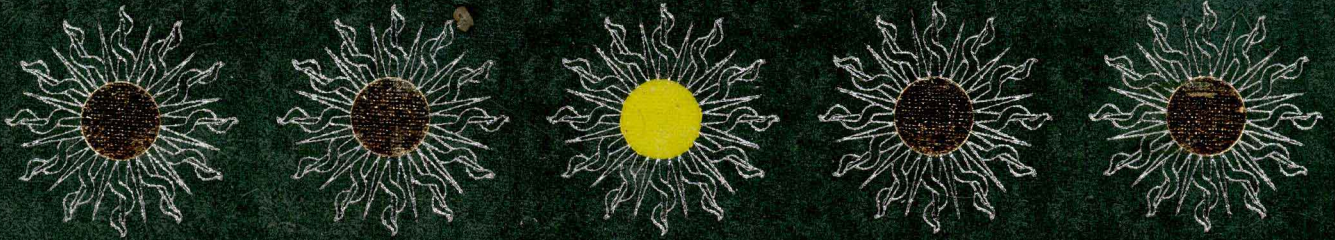

JAPONICA



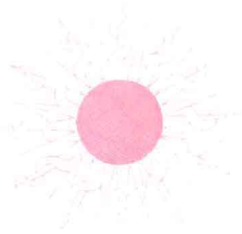
19



ENCYCLOPEDIA
JAPONICA



大日本百科事典



19

SHOGAKUKAN



ENCYCLOPEDIA JAPONICA

大日本百科事典

ジャポニカ -19

© 株式会社 小学館 1980年

昭和46年 3月15日 初版 1刷発行
昭和55年 5月1日 新版 1刷発行

編集者兼 発行者	相賀徹夫	印刷者	澤村嘉一	発行所 株式会社	小学館	郵便番号	一〇一	東京都千代田区一ツ橋二ノ三ノ一	編集・東京 製作・東京 販売・東京	〇三―三三〇―五六二〇 〇三―三三〇―五三三三 〇三―三三〇―五七三九	電話	東京八―二〇〇番	振替
印刷	凸版印刷株式会社	コート紙抄	王子製紙株式会社	アート紙抄	三菱製紙株式会社	特ロ ス抄	ダイニツク株式会社	表紙用	独逸顔料工業株式会社	特製色箔	凸版印刷株式会社	製本	凸版印刷株式会社

本書に掲載した地図は、建設省
国土地理院発行の2.5万分1地形
図、5万分1地形図、20万分1
地勢図及び50万分1地方図を使用
して調製したものである

造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁な
どの不良品がありましたら、おとりかえいたします。

Printed in Japan

ひな

雛 ひな 鳥類の発達過程の一段階をいう。大別して卵内雛と孵化後の卵外雛の時代があり、前者は卵黄の胚が鳥の形に成長し、卵内の気室で空気呼吸をはじめた孵化直前の状態に用いるのが適当(それまでは胚)である。このころから発声し、親とのコミュニケーションが始まる。

孵化時およびその後の発育は鳥の習性によって違い、裸・閉眼で孵化する晩成性と、綿羽におおわれ運動能力が発達した状態で孵化する早成性となる。しかし両者の間には、いろいろな中間的状态がある。早成性の雛は孵化後みずから活動・採餌しなければならぬので、栄養源としてまだ腹に卵黄が残っており、ニワトリの雛では孵化一二時間後に体重の一四％あり、四日めに二％に減る。一方、晩成性の小鳥の雛では、孵化時にごくわずか卵黄が残っているだけで、ただちに親から与えられる栄養にたよらなければならない。したがって卵のときの卵黄量も、早成性のニワトリやカモでは卵重量の三五％内外であるのに対し、晩成性の小鳥では二〇％、ハトでは一九％にすぎない。

晩成性の雛の在巢期間は鳥によって異なるが、長いのは海鳥のミズナギドリの類で七〇日前後に及び、アホウドリでは四か月を要する。この間雛はいったん親より二倍近い体重にふとり、親は給餌をやめ、過剰栄養は翼羽の成長に使われ、それが伸びると親の体重に戻ってみずから巣立ちする。小鳥類でも雛の体重は、いったん親に近い体重となり、翼羽の成長とともに減じて巣立つ。

小鳥類では、孵化後の裸雛・羽毛雛の「巣雛」時代をへて巣立ちし、しばらく「巣立ち雛」として親の養育を受けた後、「幼鳥」として独立生活にはいる。巣立ちまでは枝上の開放果の小鳥では一〇〜一四日、樹洞果の鳥たとえばムクドリでは一九〜二〇日である。これは危険の多い開放果では、翼や尾がまだ短い、多少とも運動能力が備わると巣を去

り、安全な洞ではより完全に成長するまで在巢するため、雛の成長速度はあまり変わらない。雛の行動発生は、だいたい次の五期に分かれる。

〔第一期〕孵化四日まで聴覚はあるが、視力はなく、もっぱら餌を催促する。
〔第二期〕五〜七日め、閉眼し、体を動かす。体に刺毛が生ずる。
〔第三期〕七〜一〇日め、羽毛が開きはじめる。整羽行動や伸びなどの動作をする。身を伏せたりもする。

〔第四期〕一〇〜一六日め、完全羽毛雛となり、逃避行動も発現、餌のついでにみ行動も出る。開放果の雛では巣立ちをする。
〔第五期〕一七〜三〇日め、飛力は完全となり、自己採餌をはじめ、争いなどの社会行動も発現してくる。そして幼鳥として独立していく。

〔黒田長久〕
比内(町) ひないまち 秋田県北東部、北秋田郡にある町。一九五五年(昭和三〇)扇田町と東館・西館・大葛村が合併し、歴史的地域の比内をとって新町名とした。花輪線が通じる。中心地区の扇田は米代川の旧河港。五と一〇の日の六斎市は現在でもにぎわいをみせている。奥地一帯はスギの美林に富み、木材の集散地でもある。南西部には大日本鉱業立又鉱山(銅)があったが、七三年廃山となった。人口一万三千九〇五。(工藤吉治郎)

皮内注射 ひないちゅうしゃ 表皮と真皮の間に注射する方法で、少量の薬剤をゆっくり吸収させたい場合におこなう。また、その注射液の反応が目に見えるという利点もある。そのため、皮内注射はワクチンなどの予防接種や、ツベルクリン反応をみるためにおこなわれる。多くは前腕の伸側におこなう。注射後、注射部位をこすったり、マッサージしてはならない。(三辺 謙)

雛菓子 ひなかし 三月三日の雛祭りに供える菓子。雛あられ、菱餅、有平細工のタイ・ハマグリなどだが、客をもてなす桜餅も広義の雛菓子にはいる。雛人形を盛大に飾る慣習は江戸中期からだだが、人形が平安朝の装束であるように、雛菓子も平安時代の素朴な食品になぞらえているのが特徴である。まず、あらは、餅をさいの目に刻み、乾燥して煎った

もので、乾飯とともに古代の間食、または携行食であった。雛あられは文政年間(一八六〇〜三〇)「雛の菓子や、菓子袋」と振り売りされた。また一般家庭でも米花や煎り豆をつくって供えた。煎り豆は「まめにはいる」と縁起をかついで、互いに贈り合った。菱餅は元米、菱の実を粉にしてついでた餅である。菱は風味がクリに似ているので水グリともいい、含め煮やきんとんにしたほか、飯にも炊き込んだ。一方、宮廷で正月に用いる菱花びら餅を簡略化したのが菱形の花重ね餅であるともいえる。菱餅は白青または白紅の二重ね、白・青・紅または白青黄の三重ね、さらに白・青・紅・白・黄の五重ねとする。白は雪、青は新緑、赤はモモの花、黄は菜の花になぞらえて表現しているというが、中国の五行思想による厄除けを意味するのではあるまいか。有平細工のタイ・ハマグリは海の幸を貢物としたことと、三月三日が大潮にあたるので、行楽を兼ねて潮干狩りにくり出した行事暦が重なっている。また雛の供えには、はじめハマグリの殻を器に用いた。↓雛祭 (沢 史生)

ヒナギキョウ 「雛桔梗」 *Wallenbergia marginata* A. DC. キキョウ科の多年草。日当りのよい道ばたや草地、低山などにはえる。茎は細く、高さ二〇〜三〇センチで群生する。葉はへら形で互生し、長さ二〜四センチ、毛がある。夏から秋にかけて、キキョウに似ているが、小形の鐘形花が茎の先に二個開く。花冠は青紫色で長さ五〜八センチ、先が五裂し、なかに五個の雄しべと一個の雌しべがある。本州中部から以西、四国・九州・沖縄、朝鮮・中国に分布する。(佐竹義輔)

ヒナギキョウ 夏から秋、繊細な花をつける



花壇や鉢植えにして観賞される。ふつう英名のデージーと呼ばれている。◇デージー
日奈久温泉 ひなぐおんせん 熊本県南部、八代市にある温泉。八代海に臨む断崖上にある。一九五五年(応永二〇)の発見といわれ、湯治向きのひなびた温泉であったが、交通の便がよく都市的な保養地に変った。アルカリ性弱食塩泉でラジウムを含み、泉温四〇〜四七度。胃腸病・皮膚病にきく。八月一日ごろは海上に現われる不知火見物の客が多い。鹿児島本線日奈久駅から徒歩一〇分。(岩本政教)
ひなぐもり 「碓氷」にかかる枕詞。「日な曇り」の意で、「な」は助詞。日の曇っている状態、すなわち薄日という続きから同音の地名「碓氷」にかかる。(橋本達雄)
ひなぐもり 碓氷の坂を越えただに妹が恋しく忘れぬかも(『万葉集』二十、上野国の防人、他田部子磐前)

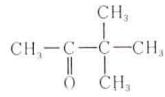
ヒナゲシ 「雛罌粟」 *corn poppy* / *Papaver rhoeas* L. ケシ科の耐寒性一年草。*グビゾンソウ・ビゾンソウ・ポッピーともいう。葉は白粉を帯びた緑黄色の羽状葉で根生する。五〜六月、花柄を抽出し、その先に径五〜七センチの四弁花をつける。花色は紅・桃・白で、花弁は薄く、繊細な感じのなかに濃艶さがある。ヨーロッパ中部の原産で、切り花として利用するほか、花壇用として庭園などに栽培される。性質はじょうぶで一度栽培すると数年はこぼれ種子で毎年生育する。秋に種子をまき、直根のため移植をきらうので、年内に花床や庭園に定植する。冬越しは簡単な霜よけ程度でよい。このほか、本種の一系統に花がやや大きいシャレーイポッピー *shirley poppy* がある。(鶴島久男)

ヒナゲシ 切り花や花壇植え用に栽培される

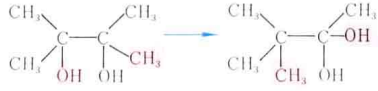


ヒナコウモリ [鼯蝙蝠] Frosted or par-colored bat/Vesperilio 翼手目・ヒナコウモリ科の哺乳類。ヨーロッパにヒナコウモリ・ヒナコウモリ・トウヨウヒナコウモリの三種が知られる。頭胴長五・五〜七・五センチ、前腕長四〜六センチ、開張二五〜二七センチ。耳介は短く幅広い。体上面は赤褐色から黒褐色まで変化に富み、その先端が白色なので霜降状を呈する。数匹から数千匹に及ぶ群れで人家内・洞窟の岩の割れ目などで冬眠する。《吉行瑠子》

ピナコテーク Pinakotek ヴァ キリシヤ語から派生した絵画収集館を意味する言葉。現在ではドイツのミュンヘンにピナコテークを名のる美術館があり、古画のアルテ・ピナコテークと近代画中心のノイエ・ピナコテークの二つがある。βアルテ・ピナコテークピナコリン pinacoline 脂肪酸ケトン的一种。ピナコロンともいう。構造のうえではトリプチルメチルケトンにあたり、ピナコリンに硫酸を作用させると生成するが、この反応はピナコリン転位として知られている。分子量一〇〇・一六、比重〇・八〇七(二五度C)、融点零下四九・八度C、沸点一〇六・五度C。無色の液体。快香をもち、水にはわず



ピナコリン転位の過程



かしか溶けないが、エチルアルコール・エーテル・アセトンなど、ほとんどの有機溶媒と任意の割合で混じり合う。【ピナコリン転位】ピナコリンを酸で処理すると、脱水とともに転位がおこって、ピナコリンを生成する反応。ピナコリン転位、ピナコリン・ピナコリン転位ともいう。この反応の過程は右の式のように、はじめにメチル基-CH₃と水酸基-OHの位置の交換がおこり、これに次いで水が失われたと考えればよいとされている。《広田 穂》

ピナコール pinacol ピナコンともいう。R₁-(OH)(C(OH)-R₂)₂の一般式で表わされる二価アルコールの総称として用いる場合と、それらを代表してRがCH₃であるテト

ラメチルエチレングリコール (CH₂)₂C(OH)C(OH)(CH₃)₂をいう場合とがある。広い意味のピナコールは、二個の炭素原子がそれぞれ水酸基をもち、しかもそれら炭素原子に結合している基Rが、いずれもアルキル基またはアリル基の化合物で、相当するケトンに適当な条件のもとで還元すると二分子が結合して生成する。中性の結晶性物質で、酸によってピナコリン転位をおこす。脂肪酸のテトラメチルエチレングリコールのほか、芳香族のピナコールとしてベンズピナコール(C₆H₅)₂C(OH)(C(OH)(C₆H₅))₂がよく知られている。

狭い意味のピナコールであるテトラメチルエチレングリコールは、アセトンと得られ、水溶液から結晶化させると、六水化合物の抱水ピナコール(CH₂)₂C(OH)(C(OH)(CH₃)₂)₂・6H₂Oとなる。結晶水をとるには共沸蒸留によって水を除いたのち、エチルアルコールあるいはエーテルによって再結晶をおこなう。分子量一一八・一八、比重〇・九六七(一五度C)、融点四三・二〜四三・四度C、沸点一七四・四度C。熱水・エチルアルコール・エーテルのいずれにも溶けるが、冷水にはあまり溶けない。↓ピナコリン 《広田 穂》

ピナコロン pinacolone ピナコリンのこと。ピナコリンは脂肪酸ケトンの一種であるが、ケトンの名称はアセトン acetone やブチロン butyrene のように-one で終わることから、このようにいわれる。↓ピナコリン

ビーナス Venus 愛と美と豊饒の女神。Venus である。もとはローマ神話の菜園の女神であったが、その特性がギリシア神話のアフロディテ Aphrodite と一致するところからアフロディテと同一視されている。したがってピナナスに関する神話はアフロディテのものである。この女神はローマ時代からネサンス時代を経ることによって特定の民族神話の枠を越え、女性の原像として広く西洋の文学・美術にとりあげられるようになった。【起原と誕生】アフロディテは、ホメロスでは天空の主神*ゼウスと海の精アイオネの娘とされるが、ヘシオドスでは太古の天空神*ウラノスとその子クロノスの戦いから生ま

れたとされる。すなわち、クロノスは父ウラノスを捕らえ、金の斧で父の性器を切り落とし、海中に投げ込んだ。やがて海原をさまよその性器のまわりに白い泡(アフロス)がたちこめ、その中から美しい乙女が生まれた。裸体の乙女は西風ゼフィロスに送られてキュテラ島に漂い、さらにキプロス島に運ばれ、そこで季節の女神ホーラに衣を着せられ、美しく飾られて神々の座に導かれたという。ルネサンス期の画家ボッティチェリの名作『ビーナスの誕生』はこの誕生譚を描いている。

アフロディテの誕生譚が男性性器にはじまり、キプロスと関連をもち、愛と逸楽の女神としてコロントスをはじめ各地で信仰されているということは、女神の起原がもともと豊饒と再生という原始信仰にもとづくオリエントの大地母神にあると考えられる。メソポタミア地方の神々の中で代表的な女神として広く信仰された*イシュタルやフェニキアの女神アスタルテはいずれも農耕再生産に結ばれた豊饒多産の女神であると同時に愛と逸楽、多淫の女神でもあった。アフロディテはこのようなオリエントの原始信仰を受け継ぎ、ギリシア人の豊かな想像性と美的感受性によって、美と愛の女神という一つの人格をつくりあげたのである。

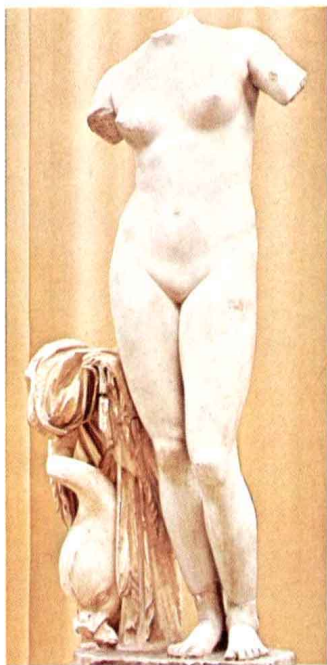
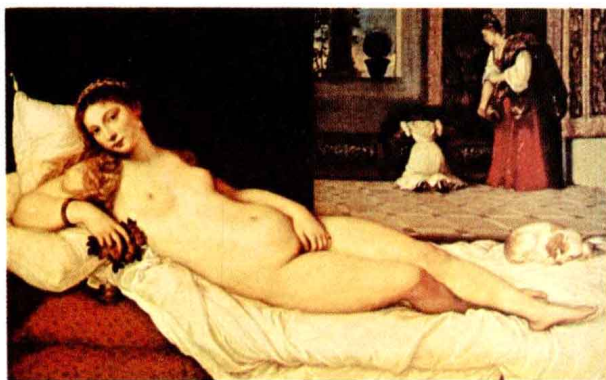
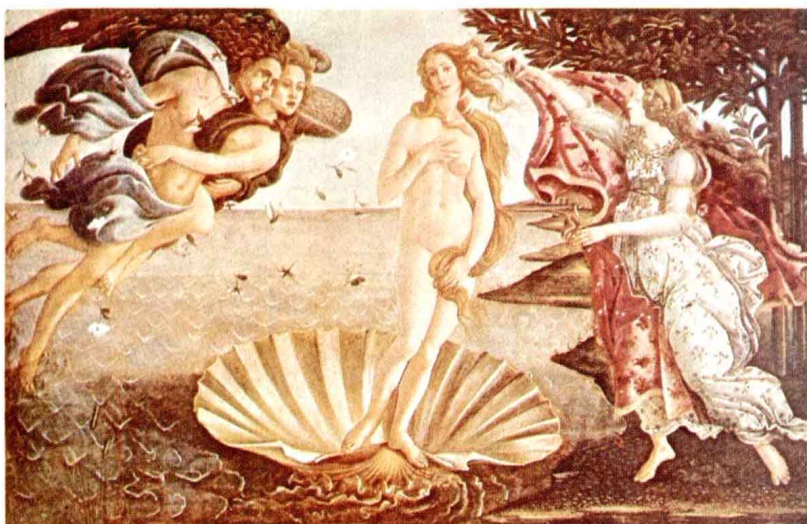
【天上的なものとの地上的なもの】アフロディテは肉体的快楽を賛美し、みずからも神々や人間との恋に身をゆだねる。同じオリンポスの女神でも処女のアルテミス(ローマ名ディアナ)は恋心を起こすものをこらしめるのに対し、アフロディテは恋をするのを勧め、その手引きとなる。しかし他方において女神は美神としての高い精神性を備えている。女神の官能は精神の支配によって美の世界に至る。プラトンは『饗宴』の中で、この女神が具有する二つの特性を述べている。すなわち、一方では天空神ウラノスから母なくして生まれたウラニア(天上の)アフロディテであり、他方ではゼウスとディオネの契りによって生まれたパンデモス(地上の・民衆的な)アフロディテである。前者は高邁な天上の愛を、後者は官能的な地上の愛を意味している。有名な「ルドビシの玉座」の浮彫りはこのプラトンの解釈を裏づける。この浮彫りの

正面は二人の乙女が手をさしのべる「海からあがるアフロディテ」(アフロディテ・アナデュオメネ)を表わし、その両側面は、一方がペールで身を包み香をたく清楚でつましい天上の女神の姿、他の面には全裸で脚を組み、楽しみに笛を吹く悦楽の女神の姿が刻まれている。ローマ時代の「ウェヌス・リグネトリクス」(豊饒・生殖のビーナス)はその前者であり、彼女は万物の生命の根源として崇拜された。とくにカエサル(ジュリアス・シーザー)はこの女神を祖先とするとされ、紀元前四六年に女神を祭る壮大な神殿を建立した。この女神の相反する二つの特性は生殖・種族保存という社会的必然性から快楽や愛という精神的なものに高められることによって永遠の美に至るという発展のプロセスを意味しているとも解釈される。

【愛の遍歴】オリンポスの十二神の一人、美と愛と生殖の守護神アフロディテは、せむしであるが十二神中ではもっとも勤勉である鍛冶の神*ハイロス(ローマ名ウルカヌス)と結婚した。これは主神ゼウス(ユピテル)が、容貌は醜いが、彼の勤勉さをたたえて、いちばん美しい女神と結ばせたのである。しかし、女神はまもなく軍神*アレクサ(マルス)と情を通じ、二人のあいだにエロス(クビドまたはアモール)・アンテロス・デイモス(恐怖)・フォボス(逃走)・ハルモニア(和解・調和)が生まれたと伝えられる。一方、『オデュッセイア』では、アレクサとの交情を知ったハイロスはベッドに巧みに網をかけ、二人を捕らえて神々にその醜態を見せつけ、ハイロスは網を解いてやると、女神はキプロス島へ、アレクサはトラキアへ逃げ去った、と伝えられている。二人の子とされるフォボスはこの逃亡の擬人化であろう。

アフロディテの愛の遍歴については、彼女が美と愛と生殖をつかさどる女神ということも多く物語が残されている。ホメロスやヘシオドスなどにもある。たとえば、ヘレスボント(現在のダーダネルス海峡)あたりで信仰された生産力を象徴するプリアポスは前述のアフロディテとアレクサの子とも、酒神ディオニソス(バックス)とニンフの子とも、あるいはアフロディテと*アドニスの子とも、ある

ピナス



また子であるともされている。しかし一般には美少年アドニスとの恋はギリシアの少年愛で、アドニスの神話を通観しても彼とのあいだに子を得たという話は見当たらない。女神は彼の死を悼み、その涙からバラが生まれたと伝えている。さらに女神はイダ山中で家畜を追っていたアンキセスを見染め、フリジ

ア王オトレウスの娘に身をまじて彼に近づき、交わってアイネイアスを生んだ。このアイネイアスこそトロイの英雄で、のちのローマ建国の祖となった。このほか十二神の美男神ヘルメスと交わって男女両性をもつヘルマフロディテを生んだとする説は、ヘルメスとアフロディテの合成語としてその名の説明

のためのこじつけであろう。また、酒神ディオニソスとの愛から結婚の神ヒュメーンが生まれたとする説も、女神が結婚や愛をつかさどる神であるところから、多くの縁起物語としてつくられたものの一つと解釈することができる。

は古く旧石器時代末期にまでさかのぼる。人類の最初の造形としてヨーロッパの山岳地方から多く出土した「ピレンドルフのビーナス」や「ローセルのビーナス」など裸体の婦人像がそれで、普通これらの女性像を「石のビーナス」と呼んでいる。これらの女性像はいずれも局部を極端に誇張しているところから生殖と豊饒の象徴、あるいは呪術的願望として製作されたものである。さらに新石器時代にはイリ、メソポタミアのニネベやウル、アルヒウバイド出土の土偶（前三七〇〇年ごろ）、キクラデスの大理石の偶像（前二〇〇〇〜二〇〇〇年）などもすべて裸体で、

〔上右〕「ロードスのビーナス」(前3世紀ごろ) 海水に濡れた髪を整える姿の大理石像。ヘレニズム時代に流行したビーナス像の一形式。ロードス美術館 〔上左〕「海のビーナス」(1世紀前半) ポンペイの壁画に表わされたローマ時代のビーナス像。第二次世界大戦の砲撃によって破壊跡から発見された 〔中左〕ボッティチェリ「ビーナスの誕生」(1487ごろ) 天真爛漫な裸体美を誇るギリシアのビーナスと異なり、人間的な官能美に変化したビーナス像の名品。フィレンツェ ウフィツィ美術館

〔中右〕「キレネのビーナス」(前300ごろ) アフリカ北岸のキレネで発見された名品。大理石 ローマ国立美術館 〔下右〕ティツィアーノ「ウルピノのビーナス」(1538ごろ) このころになると裸体風俗画としての要素が濃くなっていく。フィレンツェ ウフィツィ美術館 〔下左〕カノーバ「ビーナス」(1812ごろ) イタリアの近世古典主義の巨匠の手になるビーナス像は、モデルの理想化がうかがわれる。フィレンツェ ウフィツィ美術館

このような女性像が豊饒多産という原始的・呪術的拘束を脱し、美的女神として美術の歴史の中に大きくクロースアップされるのはギリシア以後である。前七世紀から前六世紀にわたるギリシアアールカイック期において女神はキトンをもとに、片手にハトやリボンを持つつましい乙女の姿で表わされている。古代ギリシアのもっとも偉大なる世紀である古典時代には女神は高貴な精神にささえられた厳正な姿で表わされたが、この世紀の

後期に至り、女神の姿は、先にプラトンにおいて述べたように、厳正な天上のビーナスから徐々に地上のビーナスへと移行する。前四世紀の巨匠プラクシテレスは、『クニドスのアフロディテ』において女神を官能的な全裸の姿で表現した。ここにおいて女神は美しい女性の理想像となり、その優美な姿は以後多様な発展を示す裸体のビーナス像の原型となった。さらにヘレニスティック期に至ると、女神はいちだんと地的・現実的となり、ドイツの『うづくまるビーナス』や、泉に映る自分の後ろ姿に見入る『美しい尻のビーナス』など、官能の悦びに酔う自由奔放な姿態となり、ついには男女両性を具有したヘルマフロディテ像に至った。その一方で、『ミロのビーナス』や『メデイチのビーナス』など古典様式に従った傑作もつくられ、この時代はビーナス像において美術史上まれにみる多様な発展を示した。

女神を全裸の美しい姿で表わす表現形式はヘレニスティック期以後しだいに一般化し、ローマ時代はもろろんのこと、裸体を罪とみた禁欲的な中世キリスト教世界においても、『創世記』のイブやのちのマグダラのマリアなどの像を通して受け継がれていた。そして古代復興の機運が高まった一四、五世紀になると、女神はかつてヘレニスティック期の彫像に見られたように、ルネサンス絵画の中にふたたびその優美と官能の姿態を發展させた。たとえば、『ジョルジョーネは名作』『眠れるビーナス』において自然の気風のなかで花のような肉体を画面いっぱい横たえた姿で描き、ティツィアーノは『ウルビノのビーナス』や『キュービッドとビーナス』、『聖愛と俗愛』などを描くことによって、女神の名を借りて豊満な女性の肉体を賛美した。このような傾向は時代が進行するにつれていっそう顕著となる。近代絵画は一方ではこの女神を中心とする裸体婦人像をもって一つの絵画のジャンルをつくりあげた。

なお、ギリシア・ローマ神話の中に見られるビーナスの聖なる持ち物は、動物ではハト・バクチョウ・ツバメ・スズメであり、植物ではテンニンカ・バラ・ケシ・カリリ・リゴとされている。 (前田正明)

ヒナスミ「雑草」 Viola takedana

根生葉は三角状卵形または狭卵形で先が鋭く、とがり、基部は深い心形で波状鋸歯がある。長さ四〜五センチで上面は毛を散生し、ときに白斑がはいる。葉の下面・脈上に毛があり、葉柄や花柄にも毛を散生。四〜五月、長さ一五センチの淡紅紫色の花をつける。側弁は無毛かまたはやや毛があり、長さ六〜七センチの距がある。本州・九州の山地樹陰に生じる。(根山泰一)

郡にある町。瀬戸内海の日生諸島を含む。一九〇六年(明治三九)町制施行、五五年(昭和三〇)福河村を合併、赤穂線が通じる。古くから「日生干魚師の町」といわれ、大型打瀬網・壺網などの漁法を考案、明治中期には朝鮮に岡山村をつくった。漁業のほか、製網・耐火煉瓦の工場がある。典型的な沈降地形の日生諸島は大小一四の島々からなる。瀬戸内海国立公園の一部で、大多府島の船番所跡、鶴島のキリシタン流刑地跡などの史跡があり、頭島は養鶏が盛んで、イチジクを特産する。人口一萬一三七八。(河野通博)

ひなた紋 ひなたもん 陽紋。表紋ともいう。家紋の表わし方の一種で、紋の形を白く表わしたものを。陰紋に対していう語で、正装用の紋である。↓紋付き (堀越すみ)

日向薬師 ひなたやくし 神奈川県中部、伊勢原市日向にある宝城坊(高野山真言宗)の通称。七一年(霊龜二)行基の開創と伝えられる日向山霊山寺の一二坊の一つで、明治維新後宝城坊だけが残って霊山寺の跡を継いだ。古くから、米山薬師(新潟県)・芝折薬師(高知県)とともに、日本三薬師として信仰を集め、鎌倉時代には源頼朝、その夫人政子が数回参拝している。本堂(薬師堂)は足利義満の修造といわれ、本尊の薬師三尊(行基作と伝えられる秘仏で、鈍彫りの代表的作品として知られる)を安置する。(勝又俊教)

日夏歌之介 ひなつこのすけ (一九〇一〜七九) 詩人・英文学者。本名樋口園登。別号に黄眼・溝五位・石上好古・曉雪庵主人などがある。長野県下伊那郡飯田町(現在飯田市)の生まれ。幼少から書に親しむ。少年雑誌の投書家であった。県立飯田中学から東京の京北中学



校に転じ、叔父の評論家樋口竜峽のもとに寄居、出入りする赤門派の文人らに接した。

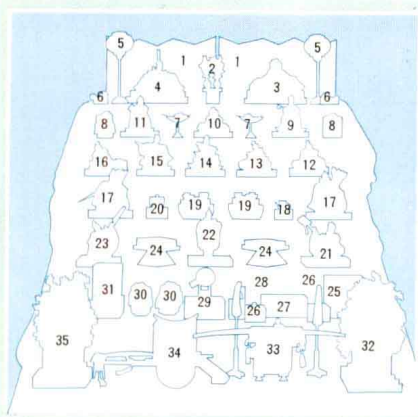
早稲田大学英文科を卒業。在学中からイタリアの耽美派ダヌツィオに傾倒し、青春の夢をつむいだ。西条八十らと同人雑誌『仮面』に詩作を発表して注目され、第一詩集『転身の頌』(一九二七)の高踏幽玄の象徴詩は、たちまち詩壇に異彩を放った。「心を折け換らずなかれ/秋の日の林間に、滴落る小泉の水沫を颯めよ/細微い水量は楯に神の黒瞳のやうに澄み勝る/きみが持てる古瓶に注心して夙く載たせよ/唇うほひ、その心性浄化りしか/まなこを矯げよ/海に消えゆく白帆の行衛について知るか/珊瑚色の半響に、心三日月のやうに航しゆけど(心を折け換らずなかれ)」。さらに第二詩集『黒衣聖母』(一九三三)では、平明・低俗を避けるため難解な文字を選び、みずから「ゴシック・ローマン詩体」と称する独特の表現を追求し、浪漫的神秘主義の詩風を確立した。一九二一年から四五五年まで早稲田大学で英文学を講じたが、その間、訳詩に『英国神秘詩鈔』(一九三三)、ポーの『大鴉』(一九三三)などがあるほか、名著とされる『明治大正詩史』二巻(一九三九)を完成した。また『明治浪漫文学史』(一九五五)とその詩業によって五二年、日本芸術院賞を受けた。(知念栄喜)

日本詩人全集13 日夏歌之介集(一九六六、新潮社)▽日夏歌之介詩集(新潮文庫) ビーナッツ ひなたかさい

雛人形 ひなにまきょう 三月の節供の雛壇に飾る人形の総称。「雛人形」の語は江戸後期になってのもので、平安時代には貴族の間には「ひいな(雛)の遊びがあった。ひいな遊びは三月の節供とは関係なく、貴族の暮らしたまねた館や食器などの調度を置いて遊ぶ一種の飯事であり、雛は立った姿の紙雛であったと推定される。これが近世まで貴族の間に残っており、江戸時代になって三月の節供が盛んになると、その人形が飾られ、とく

に雛と称されるようになった。江戸初期は床の間あたりに紙雛だけを二、三対立て、それに銚子・草餅やごちそうを入れた重箱を供えた。元禄(一六八八〜一七〇四)ごろには、雛壇を一段だけ設けて小さな屏風を背景に紙雛のほかに、布製ですわった姿の内裏雛を二対飾るようになった。紙雛も内裏雛も以前は公卿の風俗とは限らなかつたが、このころには公卿の服飾になぞらえた江戸雛が製作されるようになった。江戸中期では雛壇を三段あるいは五段と高くして、内裏雛のほかに次のような各種の人形を飾る風習がでてきた。公卿風俗や神をつけた人形、おやま(形・唐子・神功皇后・天神・金時・弁慶・恵比須・大黒・五人囃子・象乗り・裸人形や犬張子・神馬・鶴などで、当時は、にぎわいを添えるため雛祭に関係のない人形をも飾りたてるのが流行した。しかし、この飾り方は全国的ではなく、京都あたりや農村ではあまり多くの人形を並べる風習はみられなかつた。江戸後期になると、江戸で考案された五人囃子(謡・笛・大鼓・小鼓・太鼓の囃子の人形)や京都で考案された隨身(貴人に随従する近衛衛の舎人)、官女、衛士(仕丁ともい)、沓台や台笠などを持つ。あるいはかがり火をたく、桜と橋を置くなど、雛壇の定型のものも生まれてきた。それに前記のおやま人形などや、さまざまな人形も雛壇のかたわらに並べた。文化文政時代(一八〇四〜一八三〇)の歌川豊国の雛壇の図をみると、上のように幕を掲げ、雛壇には赤いきれをかけ、上段には松竹梅を描いた屏風をうしろに内裏雛、第二段に官女とその左右に隨身、第三段には五人囃子、第四段には菱餅・琴・三味線・箆箆・長持・女乗り物などの道具を並べた。これらの道具類はすべて今日のように漆塗りに蒔絵で模様を描かれていた。第五段にはごちそうをのせた懸盤、茶道具・市松人形・紙雛、雛壇の前に御所人形、人々が実際に食べるごちそう、桃の花をいけた花瓶などが並べられた。このように江戸の雛壇は五人囃子と、調度は武家の嫁入り道具の模型というように、調和に欠ける。これは飾り物が無作為につきつぎと追加されたことによるのである。

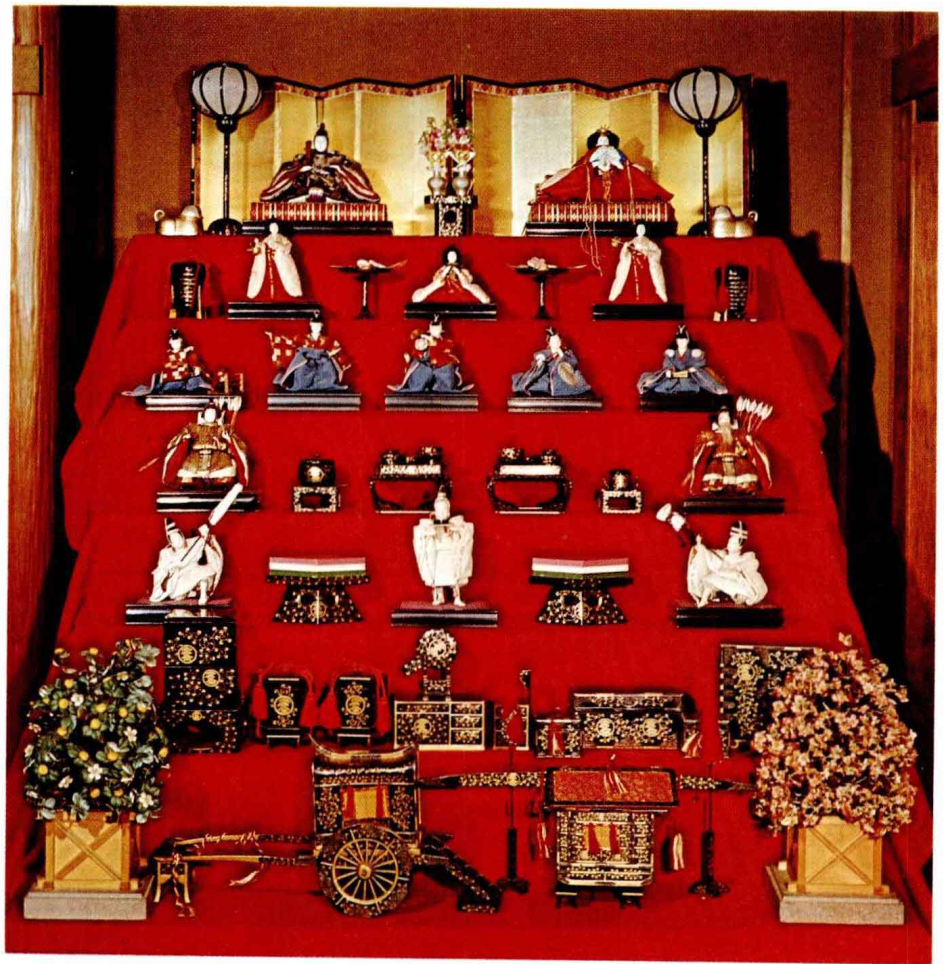
雛 人 形



現代の雛段

- 1 屏風 2 桃花酒 3・4 内裏雛 (3 女雛 4 男雛)
 5 雪洞 6 大張子 7 高杯 8 行器 9~11 三人
 官女 (9 長柄の銚子 10 三方 11 加え) 12~16 五
 人囃子 (12 謡 13 笛 14 小鼓 15 大鼓 16 太鼓)
 17 隨身 18 湯桶 19 お膳 20 飯櫃 21~23 衛士
 (21 台笠 22 沓台 23 立傘) 24 菱台 25 鞆前
 26 挾箱 27 長持 28 針箱 29 鏡台 30 貝桶
 31 重箱 32 桜 33 御駕籠 34 御所車 35 橘

[写真下]江戸時代から大正時代まで、多くは向かって右へ男雛、左へ女雛を飾るのが普通であった
 ① 寛永雛 ② 次郎左衛門雛 ③ 土雛 (今戸焼き)
 ④ 古今雛 以上江戸時代 ⑤ 内裏雛 ⑥ 変わり雛 (春雨雛) 以上明治時代



う。江戸に比較して、京阪の雛壇は御殿と内裏雛、階下に隨身・桜と橘・御所車というふうの一つの気分にまとまっていた。江戸時代にはさまざまな容姿の雛がつぎつぎに生まれたが、これは他の人形と同様に製作者や雛商が、それぞれ独自の趣向をこらして売り出したことによる。江戸時代の遺品では最古の寛永雛、寛永雛をさらに上製にし江戸中期に流行した享保雛、京都で製作され、はじめ上流社会に喜ばれ、やがて一般にも普及した次郎左衛門雛、京都の公卿衆のあいだにおこなわれた有職雛、この影響を受けて、近代好みの容姿で流行した古今雛などさまざまな雛が出現した。これらのうち次郎左衛門雛と古今雛は江戸時代の呼称であるが、その他は明治になってから、好事家のつけた呼称のようである。しかし前記の雛だけが製作されたのではなく、製作の他さまざまな容姿の雛がつくられ、一般家庭の需要に応ずるため粗製の品も盛んに売られた。地方では多く土雛がつくられていた。明治時代には江戸時代の並べ方を踏襲し、東京あたりでは五七七段にし、人形や調度・



ヒナノカンザシ 茎の上部に小さい花を穂のようにたてる

膳部などは前記の豊国の図に見えるところとほとんど同じである。しかし、こうでなくてはならないというきりがあるわけではなく、各家庭の好みによって異なった。東京では衛士・隨身はあまり喜ばれなかったが、これもだんだん飾るようになった。そして、内裏雛・官女・隨身・五人囃子・衛士を組の人数とするならわしが東京あたりで生まれた。また、それ以外の人形を並べるのも江戸時代に続いておこなわれ、明治時代の末には三月節供前に種時三番叟(二人)・鶴亀(二人)・高砂(二人)・汐汲・小野小町・浦島・狸々・恵比須・舌切り雀・花咲爺・手古舞・太田道灌・狛引官女などの人形も売られ出されていった。狛引官女とは当時小犬のチンが流行していたので、官女に狛を引かせた新型である。今日の飾り方は一般に内裏雛・官女・五人囃子・隨身・衛士、調度は屏風・御殿(上方)・桜と橘・雪洞・重箱・箆・長持・挾箱・御駕籠・御所車・鏡台・針箱、供物をのせる御膳、菱餅や菓子のをせる菱台、高坏、三方などとはばきままっているが、これは関東大震災(一九三三)のあと、百貨店などで雛人形・雛道具をセットとして売り出すようになったことによる。第二次世界大戦後は、木目込細工の人形でガラスケースに入れたりした小型ものが流行しはじめたが、これは都会の住宅が狭くなった影響であろう。また紙雛を立体的に飾ったもの、内裏雛一対だけを金屏風の前に飾ったものなど、簡素に飾る方式も一方はおこなわれている。

七(一五)〇六〇、葉は対生し、卵形で長さ七(一五)五、基部は浅い心形で先はとがり、縁には鋸歯がある。夏、茎の頂に集散花序が円錐状に集まる。花冠は壺形をなし、暗紫色で、先が五裂する。萼は五裂し、裂片の先はとがらない。雄しべは四個、仮雄しべは一個ある。本州の中部以西から四国・九州に特産する。佐竹義輔

ヒナノカンザシ 「雛簪」 *Salomonina oblongifolia* DC. ヒメハギ科の一年草。繊細な植物で、茎は細く、高さ二五、単一かまたは分枝し、分枝は斜上する。葉は互生し、長楕円形でほとんど無柄、長さ五八、上方の葉は披針形で、長さ一二、ある。八九、長月、長さ約六の穂状花序を頂生し、多数の花をつける。花は帯紫色、小形で長さ二、萼片は五個で披針形、花弁は三個で側弁は下方の弁より短い。蒴果は径二、腎形で扁平、縁には刺毛を疎生する。湿地生で、本州・四国・九州、南朝鮮・台湾・インド・マレーシア・オーストラリアに広く分布する。和名はかれんな蒴果をつづる果穂を雛の簪にたとえたものといわれる。榎山泰一

ヒナノシヤクジヨウ 「雛鏡杖」 *Burmannia japonica* Maxim. ヒナノシヤクジヨウ科の小形腐生植物。暖地の林中にはえる。全体白色で、葉は茎上に数個つが白色の鱗片に退化する。花茎は高さ八に達し、晩夏、茎頂に花を頭状に一〇個内外つける。花は白色で長さ約七、三角状長楕円形の花筒がある。上端は三裂し、裂片の縁の基部に小形の内花被片が三個と、雄しべが三個つく。子房は下位で、花柱は花筒内に直立し、先端は大形の三裂する柱頭。果実は蒴果で長さ二・五、内外、花筒に包まれ、不正に裂開する。

ヒナノシヤクジヨウ科は熱帯の林中にはえ、小形で、多くは葉緑素のない腐生植物である。二二属一三〇種が知られ、日本には二属五種がある。大井次三郎

状を示すことなく、いわゆる保菌鶏となり、感染源になる。成鶏や他の鳥類が感染することもある。定期的に血清診断をおこない、保菌鶏を摘発淘汰して発生を防ぐ。後藤直彰

ヒナバタ 「雛蝗虫」 *Chorithippus bicolor* 直翅類・バタ科の昆虫。体長は雄一七、雌二六、内外の小形種で、体色は変化する。雄は褐色で不規則の濃色斑があり、前胸背側縁、側胸背の後方の斑紋は汚白色である。前翅の中央には黒斑が並び、後翅は透明。雄の後脚の脛節と尾端は紅色のことが多い。雄は後脚の脛節を前翅にこすりつけて、シュルルルと発音する。日本全土のほか、シベリア・ヨーロッパなどに分布し、日本では山地から高原にかけて分布し、近似的種が多く、ヒロバネヒナバタ *C. latipennis* は、前翅の前縁部が幅広く、後翅が黒みをおびる。長谷川仁

雛祭 ひなまつり 三月三日の節供行事。雛人形を飾って桃の花・菱餅を供え、白酒や*雛菓子などをふるまう。楽しむ女兒の祭で、桃の節供ともいう。↓雛人形

〔歴史〕雛祭の起原は案外に新しく、近世初期に幕府や大名の大奥に始まった雛贈り・飾りの習俗が、やがて広く民間にも及んで、寛文・延宝年間(一六六〇)ころにはその形が定まり、以後ますますはなやかさを増したものとされる。『徳川実記』には一六四四年(正保二)に「千代姫(家光長女)御方へ御老臣雛人形をささぐ」という記録があり、こうした雛の贈答慣習のため雛人形は精巧華美なものになって、専門職人の手につくられ、雛市で広く売られさばかれるようになった。一六二九年(寛永六)の「ヒナノ樽台三テ有酒(西洞院時慶手記)」の記事のように京阪にもこの風習はあったが、むしろ雛祭は江戸中心に盛んとなった。しばしば華美な雛・雛道具を禁ずる布告が出されているが、その効果はほとんどなかった。

近世初期の雛飾りは多く平壇の立雛であったが、中期以後は内裏雛を赤毛氈敷きの五棚雛壇にすえて官女・五人囃子・隨身・仕丁を加え、雛道具を並べるという形式に固定した。明治以後は広く全国に普及し、女兒の初節供の雛贈り習俗にささえられて、雛飾りも華麗さを増して、まったく女兒の遊び行事と化した。今日に及んでいる。しかし、三月三日・桃・人形・菱餅・白酒というその構成要素には、次にあげるような古くからの信仰行事・習俗などの影響がみられる。

〔上巳の祓〕日本の三月節供行事記録の初見は、『日本書紀』の額宗天皇元年(四四三)「三月上巳、幸後苑(曲水宴)」という記事とされる。これは「三月三日、士民並出江渚池沼間、為流杯曲水之飲」と『荆楚歲時記』にみえる中国の習俗の移入であり、三月三日に死んだ三人の幼女の穢を水辺で洗い浄めたという漢代の故事に由来すると伝えられている。上巳は三月最初の巳の日をさすが、やがて三日に固定して「重三」とも呼ばれ、水辺で祓をする日とされてきたのである。*曲水宴は、流水に杯を浮かべつつ詩を賦して楽しむ風雅な遊宴であるが、水辺修祓の古意もとどめる三月上巳の行事として、奈良・平安時代を通じて久しく宮廷中心におこなわれた。七三〇年(天平二)三月三日「天皇御松林宮、宴五位以上、引文章生等令賦曲水」(統日本紀、あるいは「応和元年(六六三)三月三日、御釣殿、泛觴流水、令侍臣飲、公卿侍臣献詩」(北山抄)などと記録にもある。また中国では「三月桃花水下、以三招魂統魂三祓除穢穢」(荆楚歲時記)とあるように、この日に桃の呪力で穢を祓うこともおこなわれていた。平安宮廷の曲水宴で「桃花石帯」をかならず着装し、桃花酒(桃葉の粉を混ぜた酒)を飲んで邪気を払うのを例としたのは、それにならうものであった。

また『文徳実録』嘉祥三年(八五〇)の条に「毎月三月初三日、婦女採之(母子草、蒸擣以為餅、伝為歳事」とあるように、母子草のだんごを食して邪気を除く風もあり、伊勢神宮にも三月節供に新草餅を供える儀式があった(皇大神宮儀式帳)。これもまた「荆楚歲時記」にみえる母子草の餅で「厭時氣」という習俗の影響であり、後には蓬餅をもつぱら用いる例になった。

こうしてみると、雛祭の桃と白酒は、上巳の祓の「桃花酒」の影をひくもので、女兒の祭になったため、甘い白酒(もち米とみりんをつくる)になり、桃は花を供えるだけに変

わつたどみることができる。菱餅の本態は蓬餅で、現在でもヨモギの緑色をとどめており、また実際に蓬餅をつくって食べる風習をもつ地方も広く存在している。しかし、「人形」との結びつきは、以上の記事には見られない。

【祓の人形】『源氏物語』須磨の巻には、光源氏が三月上巳の日、陰陽師を召して祓をおこない、人形を船に乗せて海に流したとある。こうした陰陽師の祓と人形（撫物）流しの事例は『類聚国史』七九二年（延暦一一）の「幸南園祓飯」の記事をはじめ諸書に散見し、また『建武年中行事』にも、三月三日の「御燈行事」には人形に饗供して後にそれを祓うとするされている。そして、こうした撫物としての人形に罪穢を移して流す習俗は、むしろ日本固有の風ともみられ、三月上巳にかぎらず、*夏越の祓をはじめ、古くから種類の機会におこなわれ、今になおその形を残しているのである。

自「昨日」送人形、参内高侍之間、成房令置枕頭、今朝遣彼撫物之所、御祈勸行依送進候」とあるのは注目すべき記事で、上巳の祓に人形を贈り、幼児の撫物とながら、これを祈禱して浄め直し後の用にもあてたらしい。土焼き人形となり保存に耐えるものに変わったからであろう。以上のような上巳の祓と雛贈り・雛飾りとの習俗は、おおむね室町時代に起こったらしく、しだいに呪物として祓うものから、保存して再用する美麗なものになっていったようである。

江戸大奥における雛祭はこの後を受け継ぐもので、そこでは雛の呪物性はまったく失われて、むしろ女兒の玩具として飾られるに至り、また贈答用としていきおい雛人形は精巧華美になり、人形師の手にその製作も移っていったのである。しかし、女兒の初節供に「祝いもの」として雛人形を近親から贈る習俗は、こうした古い信仰的伝統を今に残しているといえる。

【流し雛】現在でも三月節供の祓人形の伝統を残している地方がある。鳥取地方では三月三日の夕方に、「流し雛」をおこなう。棧俵に一对の紙雛を飾り、供物とともに川に流すのだが、それは七夕流しや盆の精霊送りと似ており、本雛の破損したものもこうして流し送るといふ。また岐阜県加茂郡地方でも、土焼きの雛を供花とともに川に流すことがあったという。さらに『嬉遊笑覧』（一八三〇年、文政一三）にも、現在の神奈川県愛甲郡地方では、三月節供に古雛を川に流し捨てるという、女兒が白酒を汲みかわし、泣いて別れを惜しむ風があると記してある。そして江戸にも、元禄年間（一六八七～一七〇三）には紙雛を川に送る風が民間にはあったという。つまり三月節供の雛は、家に飾って饗応したうえ、流し送るのが本義であって、それは風祭・虫送り、あるいは大祓・八朔・九月節供・夏越の祓などの人形とまったく同じ意味でもあった。紙雛から押絵雛・土雛・糸雛へという雛人形の展開もそのことを裏付けるもので、やがて精巧美麗な飾り雛がおこなわれるようになったのちも、なお古雛を辻や社に納める風習は残っている。それゆえ、記録のうえででは近世初期、江戸大奥の節供行事から雛祭は始

まったとみられるが、それが普及する土台には祓人形習俗の先存があり、しかもそうした「人形送り」の行事は三月節供にかぎらず、広く季節の変わり目におこなわれて、別個の展開を示したのである。

【野遊び・磯遊び】一方、三月節供に磯遊び・山遊びなどと称して、子どもたちが海辺や山野に出て一日を遊ぶ風習が、九州から東北にかけて広くみられる。また花見正月、子どもたちの花見、山あがり、春なぐさみなどという、早春の一日、山野に出て遊樂する「花見」の行事も、三月三日を目限とするところが多い。長野県下伊那地方では「三月場」といって、子どもたちが三月三日に川辺で人形遊びをする風習があり、また千葉県君津地方にも女たちが盛装して丘に集まり、一对の雛人形に供物をして宴を開き、「お花見イヤい、お浜見イヤい」などと唱えて、雛をさしあげて、四辺の風景を見せる風習があった。そして、こうした習俗がすたれたあとでも、なお三月節供の子どものままごと遊びの風は残ったという。大阪近辺のかつての「野辺節供」もそれに類したもののようである。

また、春の*潮干狩りの起源も、三月節供の磯遊びにあったようで、井原西鶴の『本朝若風俗』にも「三月三日、潮干などいひて遊ぶ日なり」とある。こうした三月節供の子ども仲間の磯遊びは、近年まで南九州や東北の北部に残っていたが、雛人形とのかわりほとんどなかった。

しかし、このような早春の山野の遊びはたんなる行楽行事ではなく、むしろ季節節の変わり目に来往する神霊を迎える行事であり、あるいは疫神の類を山野に饗して送る方式でもあったと思われる。長崎県の宇久島などでは、三月三日を「三月どん」といい、「正月どん」と同じく、この日來往する神霊があると考えていたようである。

こうした季節の変わり目ごとに來往する神霊・精霊のあることを信じ、それを饗応して送り払う日本固有の行事が、罪穢の払拭行事とともに上巳の祓という移入習俗と習合して雛祭の祖型が生じたとみることができる。

【麦ほめ節供】福岡県宗像郡にある地ノ島では、三月三日を麦ほめ節供といって、この日

には畑のムギを見回って歩く習俗があった。また格別の行事はなくても、三月節供に農作業を休むことは一般の傾向で、この日田畑に出て働く人を「能ない節供働き」とあざけったり、あるいは村規約で節供の野良働きを禁じ、違反者には制裁を下すと定めていた事例も少なくない。前述のような花見・野遊び・磯遊びの習俗とも関連して、三月節供は広く農作業を休んで慎む日とされていたのである。現在では、三月節供にあらためて農作

雛祭（左）和歌山市淡島神社の雛流し祭、古い人形を供養し、海に流す（右）江戸時代の雛祭（絵本十寸鏡）より



の子祝行事をするところはあまり見当たらないが、まったく無縁であったとはいえない。むしろ、雛祭の盛行によって、農作の予祝という面は薄くなり、三月初旬における農作業開始にあたっての予祝行事は、わずかに社日や春彼岸に、その跡をとどめるにすぎなくなつたとも思えるのである。

〔現代の雛祭と人形〕ともかく雛祭自体の発生は近世初期にあり、現代では、伝統的な農作予祝や修祓の信仰習俗ととして関係のない子どもの遊び祭になつている。これを記録史料からその源流をたどると、中国の習俗の古い移入とその後の変化、そして民間一般への下降普及といえる。しかし、各地に今もみられる、古風な流し雛や雛送りの習俗や農作業の禁忌あるいは予祝的行事のわずかの残存を考へ合わせると、すくなくとも雛祭成立の土台には、わが国固有の信仰習俗の伝統があつたといえるようである。

雛祭の定着と普及は、日本の民芸の発達に大きい役割を果たした。別項「雛人形」に詳述されているとおり、日本の人形製作技法はおもに雛祭の盛行によって発達し、また多様な種類を生み出した。初節供の贈答習俗がいきおい華美な人形をつくり出す契機をなしたからであろう。こうして雛人形づくりは専門人形師の手に移り、人形芸術ともいべき美術の一領域を開くにいたつている。

古風な三月節供行事にもなう土俗的な雛人形の種類も多種多様のものであり、今日ではむしろ郷土民芸として、雛送り行事を離れて製作され、人びとの趣好にこたえている。玩具として古型の人形が、全国各地で広くつくられてきたのも、また雛祭の影響によるところであろう。しかし、こうした人形は現在ほとんど影をひそめ、わずかに特殊の伝統人形が郷土民芸として昨今復活してきたにとどまる。

一方、現代の雛祭はむしろ百貨店などの商策に利用されて、いちじるしく豪華な雛飾りのセツトを生み出す結果になり、贈答用として見えを誇るような風潮さえ生じている。雛祭を祝う側でも、たんにこれを飾り立ててその豪華さに満足する程度になり、雛祭の本義である遊び行事の楽しさは一般家庭からはし

だいに遠のきつつある。むしろ、幼稚園・保育所あるいは小学校における新しい集団の雛祭に、子どもたちの関心は移つていともみられるのである。

俳諧では、「雛」「雛の節」「雛の日」「雛の夜」「雛の燭」「雛かざる」「紙雛」「古雛」「内裏雛」などとも春の季語。

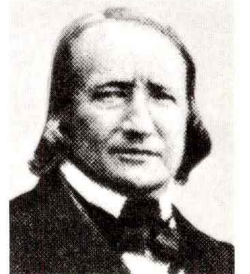
■有坂与太郎著『日本雛祭考』(復刻版)(元七、拓石堂出版)▽折口信夫全集3『雛祭り』(六六、中央公論社)

火繩銃 ひなわじゅう ヨーロッパにおいて一五世紀後半に発明された、火繩点火機によって火薬に点火させる銃。ふつうは先込式といつて、銃口から黒色火薬と弾丸をこめ、銃身の後方にある火門孔に火繩の先をつけて点火させる。日本には一五四三年(天文二二)種子島に漂着したポルトガル人から伝えられた。軍用の六匁筒(口径一・五・八リ)、銃身長一筒(口径一・八・七リ)がふつうで、銃身長一筒の銃での有効射程は二〇〇リ、最大射程は一〇〇〇リに達する。命中精度としては三〇リで直径一〇リ程度の円に集中させることができ。発砲の速度は、早合(発射薬と弾丸をまとめた一種の薬莢)を用いて一分間に四発の発射が可能である。戦闘に用いられた例としては、長篠の戦いにおける織田軍の鉄砲による効果が旧来の戦術に大きな変革をもたらしたことで知られている。↓銃

ピナン(島) ひな(ナ)ン(島) 所 莊吉
ピナンカスラ 「美男葛」モクレン科の常緑つる性木本植物。昔、樹皮から得る粘液を櫛につけて髪をすいたのでこの名がある。サネカズラともいう。↓サネカズラ

避難港 ひなごう 台風などの荒天の際、船舶が逃げ込んで避難する港。避難港の条件は航路の近くにあり、錨地が広く、適当な水深があり、あらゆる方向からの風浪をさえぎれる点にある。天然の良港といわれる港はこれに相当し、日本の代表港には、長崎・佐世保・糸崎・小豆島草壁・舞鶴・横須賀などがあげられる。 (岡田正明)

Alfred de Vigny (アルフッド・ヴィグニ) フランスの詩人。トゥールレース地方ロシーユの生まれ。大革命後没落した軍人貴族の子。



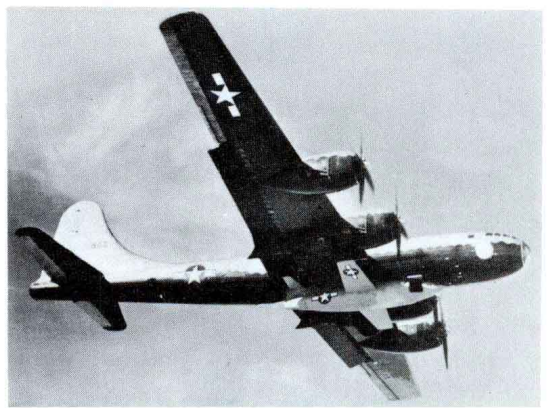
王政復古の際に近衛師団に入隊したが、かたわらユゴーのサークルに入り、一八二

二年、処女詩集を出版した。単調な軍隊生活にあきたらず、退役を決心した前後からは創作に専念、『古今詩集』(八六六)をはじめ、歴史小説『サン・マル』(八六六)、哲学小説『ステロ』(八三三)および『軍隊の服従と偉大』(八三五)のほかに、悲劇『チャタートン』(八三三)などを書き、はなばなし活躍をつづけた。晩年にはメーヌ・ジローの片田舎の「象牙の塔(サン・ブルーブの命名)に引きこもつて、瞑想にふけり、作詩に没頭した。詩集『運命』(八六四、没後刊)に収められた約一編の詩には、「狼の死」牧人の家」など不朽の傑作が多い。ピニエは数あるロマン派の作家のなかでも、ただ一人の哲学詩人と呼ばれ、生まれつきの傲岸な堅忍主義と、それを表わす象徴的手法とが後代に及ぼした影響は大きかった。 (小林竜雄)

平岡昇訳『ステロ』(岩波文庫)
ピニオン Pinion 小さい歯車。かみ合う一対の歯車のうち歯数の少ない小歯車のほうをいう。とくにラック・ピニオンとかみ合う小歯車のことをいう場合が多い。なお歯面を切削した歯車形の歯切り用工具のことをピニオンカッターという。↓歯車 (中山秀太郎)

鞴肉の嘆 ひにくのたん 久しく戦場でウマを乗りまわさず、鞴に肉がついてしまった、すなわち、功名を成す機会に恵まれないとの嘆き。『鞴肉の嘆を託つ』などと用いられる。『三国志』蜀志に、「劉備曰く、常時身鞍を離れず、鞴肉皆消ゆ、今復騎せず、鞴裏に肉生ず、日日流るるが如し、老の將に至らんとす、功業建たず、是を以て悲しむのみ」とある。 (山所義行)

B 29 ビーにじゅうく アメリカのボーイング航空機会社が第二次世界大戦中につくった大型長距離爆撃機。一九四五年(昭和二〇)から日本本土攻撃用に使われ、広島・長崎に対



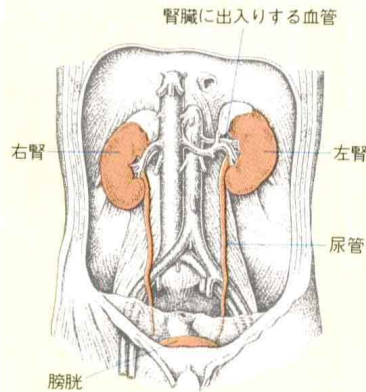
B 29 ボーイングB-29スーパーフォートレス。腹部は超音速ロケットベルX1

する原子爆弾投下の際の使用機ともなった。四六年五月までに三九七〇機がつくられ、アメリカ空軍戦略爆撃隊の主力となり、一部は五〇年の朝鮮戦争にも出動。全幅四三・二リ、全長三〇・二リ、総重量六四・リ、発動機ライトR-3350(二二〇〇馬力)四基、最大速度時速五七六キ、航続距離九六五〇キ、爆弾搭載量九リ、乗員一〇人。 (関川栄二郎)

ビニヤッテルマル Vinya del Mar 南アメリカ、チリ中部の海岸保養都市。人口二五・一万(九七〇)。バルパライソの北一〇キにあり、南米第一の保養地。海水浴場エルレクレオ、大ホテル街カレタアバルカが有名。大統領の夏の官邸、カジノ、美しい庭園をとりまく建物も観光客をひきつける。 (山本正三)

Pierre-Joseph-Georges Pigneau de Behaine (ピエール・ジョゼフ・ギョーゼ・ピニエ) フランスの宣教師。ベトナム名は百多禄。二五歳のときパリ外国宣教会から布教のために東インドに派遣され、四年後にアドラン司教の地位についた。一七七四年以後インドシナを布教中、西山党と戦っていた後の阮朝の嘉隆帝(阮福映)に謁見し、八三年フックア島に追われた嘉隆帝からその子阮福景を託され、ベトナム統一のためにフランスの援助を請われた。ピニ

泌尿器官



注：腹腔深部のため、浅部の臓器は除いてある

ヨールは景を連れてフランスに戻り、八七年にルイ一六世に嘉隆帝の言葉を上してフランス安南攻守同盟条約を結ばせた。しかし、フランス領インド総督の反対でこの条約が批准されなかったため、私費を投じて義勇軍を募り、八九年にベトナムに帰って嘉隆帝を援助した。嘉隆帝は一八〇二年に天下を統一したが、ビニールはそれより前にクイニオンで没した。

泌尿器科 ひによろきか 臨床医学の一分科。診療科目としては比較的新しいもので、腎臓・尿管・膀胱および尿道などの泌尿器官ならびに睪丸・副睪丸・精管・精囊腺・前立腺・陰囊・陰茎などの男子性器の疾患の診療をおこなう。しかし、腎臓に多い腎炎などは古くから内科で診療してきたので、現在ではまだその慣習に従い内科でおこなっている。泌尿器科ではもっぱらその外科的診療を担当している。したがって、泌尿器外科ともよばれる。泌尿器科は顕微鏡と膀胱鏡とレントゲンの三脚に基盤を置いて独立し、発達したものである。泌尿器科専門の病院としては、すでに一八六〇年に創設されたロンドンのセント・ピーターズ病院があるが、大学の講座としては九〇年バリのオビタル・ネットールにおいてギオン F. J. C. Guyon (一八三二—一九〇〇) が開講したのが最初である。日本では皮膚泌尿器科講座として長く設けられていたが、一九二二年(大正一一)に東京慈恵会医科大学で泌尿器科講座を独立させたのが最初とされ、その後は相次いで各大学に新講座が設けられるようになり、現在では医学関係の各大学の

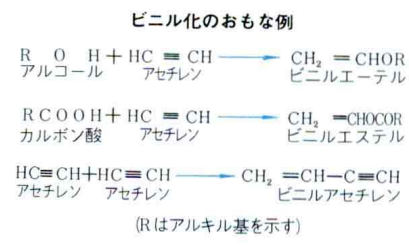
すべてに泌尿器科講座がある。〔田村 一〕
泌尿器官 ひによろきかん 泌尿器官とも読み、尿をつくり、それを排出する器官で、腎臓・尿管・膀胱・尿道からなる。腎臓実質でつくられた尿は尿管を通して乳頭に運ばれ、尿管に排出される。多数の腎臓の尿は腎盂に集まって尿管を経て膀胱に送られる。左右の腎臓からの尿が合流して膀胱にたまり、その量がある程度増すと尿意をもよおすようになる。そして意識的に排尿をしようとするときには膀胱壁の平滑筋が収縮するとともに、膀胱の出口にある括約筋が開いて膀胱内の尿が尿道を通して外部に排出される。↓尿 ↓腎臓 泌尿器において男女の差異のいちじるしいのは、尿道である。男子の尿道は膀胱から尿道口まで二〇〜二五センチで、女子のそれが二・五〜四センチで短く太くまっすぐなのにくらべてひじょうに長く、しかも細く湾曲している。さらに男子の後部尿道には精囊管および前立腺管が開いていて、精液もまた尿道を通して射出される。すなわち、男子においては尿道が尿道であるとともに精路でもある。女子尿道は尿道だけの通路である。男子の膀胱の後方には直腸が存在するが、女子では膀胱と直腸との間に子宮が介在している。したがって、妊娠あるいは子宮疾患の場合に種々の影響が膀胱に波及しやすい。〔田村 一〕
なお、動物については排出器官といい、排出を管む器官で、動物体内に生じた老廃物を排出するとともに、体液の成分や濃度を維持する役割をもっている。↓排出

ラミニア聖堂などを設計した。しかし彼の代表作は、カプラーラのビラッパルネーゼ(一五九八—一六四〇)とジャコモ・デラ・ポルタと共働したローマのジェズ聖堂(一五六六、内部の設計)である。前者は正面の大階段の巧みな構成や五角形プランを生かした構築的構成でこの期の代表的別荘建築の一つとなっており、後者はアルベルティの構想を継承しながら、さらにそれを発展させた統一ある空間構成に成功している。〔久保 尊三〕
ラウレンス Laurence Binyon (一八六一—一九〇九) イギリスの詩人・東洋美術史家。ランカスター生まれ。オックスフォード大学に学ぶ。作品に『全詩集』(一九三三)その他があり、詩はアカデミックで伝統主義の域を脱していないが、ダンテの『神曲』の英訳(一九三三—一九三六)はパウランドに賞賛された。一九二九年に来日し、その際の講演を『イギリス美術詩歌に描かれた自然風景』(一九三〇)にまとめた。プレイクの詩画に関する著述もある。〔徳水 暢三〕
ビニリデン vinylidene 図のような構造式の化合物を一般にビニリデン化合物と称し、ビニル化合物と同様に重合させて使う。たとえば R がメチル CH₃ で、R' が COOCH₃ のときはメタクリル酸メチルである。ふつうビニリデンといえは R・R' の両方が塩素 Cl で、それを塩化ビニルと重合させると、ビニリデン合成繊維としたものを意味する。日本でもサラン・クレハロンなどの商品名で市販されている。↓塩化ビニリデン樹脂 〔井本 隆〕
ビニル vinyl ビニル単量体あるいはビニル化合物のことで、ビニールともいう。また俗には塩化ビニルの重合体である塩化ビニル樹脂を単にビニルとよぶことが多い。↓ビニル化合物

ビニルエステル vinyl ester ビニルアルコールのエステルの総称。おもにカルボン酸エステル(一般式 RCOOH)を CH₂ が、広い意味では無機酸エステルも含まれている。これらのうち、酢酸ビニルはビニル樹脂の合成原料となる単量体として工業上重要である。一般にアセチレンと脂肪酸とを加圧下で亜鉛塩などを触媒として反応させると得られる。ラジカル機構で重合をおこなって高分子物質が得られるので、ポリビニルアルコール・ビニル重合体・ポリビニルアルコールの原料となる。いずれも無色の液体で、加水分解によって対応するカルボン酸とアセトアルデヒドを得る。〔広田 稔〕
ビニル化 —か ビニル基 CH₂=CH— を化合物に導入する反応。とくに反応活性をもつ水素にアセチレンを反応させてビニル基を導入する方法は、レック反応の一つとして知られている。アルコールの水酸基—OH、チオールのスルフヒドрил基—SH、カルボン酸のカルボキシル基—COOH・アミノ基—NH₂、および置換アミノ基などの水素は、アルカリあるいは亜鉛塩を触媒として容易にビニル化できる。しかし、直接炭素に結合したビニル基をもつ化合物をこの方法で合成することは困難で、アセチレンのビニル化によるビニルアセチレンの合成など、比較的少数の例しか知られていない。右の式に代表的なビニル化の例を示すが、これらの反応により合成されるビニル化合物のなかには、酢酸ビニルのようにビニル樹脂の合成原料として重要なものもある。↓酢酸ビニル 〔広田 稔〕
ビニル化合物 —か ほうぶつ エチレン CH₂=CH₂ の一つの H が他の基と代わった化合物の総称で、エチレンも含まれる。そのいづれもが石油化学工業においてエチレンやプロビレンから製造され、プラスチック

の設計)ですぐれた才能を示し、また、サンタンドレ・アイン・ビニアッフ

CH ₂ =CH—R	ビニル化合物 R の下に置き換わる
H	エチレン
CH ₃	プロビレン
Cl	塩化ビニル
OCOCH ₃	酢酸ビニル
CN	アクリロニトリル
CHO	アクロレイン
	スチレン



ゴム・合成繊維などの高分子化合物の原料であり、近代重化学工業の重要な成分となっている。ビニル化合物は重合して高分子となりうるものなので、ビニル単量体 vinyl monomers と呼ばれることもある。また本来ならばビニル化合物ではないメタクリル酸やそのエステル、塩化ビニリデンなども高分子原料であるため、広義のビニル化合物・ビニル単量体として扱うことがある。 〔井本 稔〕

ビニル玩具 — 〔がく〕 第二次世界大戦後セルロイドに代わる燃えにくい資材として登場してきたビニル製玩具の総称。じょうぶで彩色が鮮明にでき、比較的安価に量産化できるので、もっとも新しい材料の玩具として最近めざましい進出ぶりを示している。軟質ビニル製と硬質ビニル製とがあり、前者には「ミルク飲み人形」以下の流行人形があり、また空気を入れてふくらませて用いる「空気入りビニル」には、幼児向きの人形や動物類などが多く見られる。この種の代表的なものに一九六〇年(昭和三五)ごろ全国的な流行をみせた黒ん坊人形の「だっちゃん」がある。そのほか風船、海水浴用の浮き輪や水遊び玩具がある。硬質製では乳児用の「がらがら」 〔斎藤良輔〕

ビニルコード vinyl cord 屋内配線と電灯や電気器具を接続するための電線、つまりコードのうち、とくにビニルで被覆されたものをいう。 〔戸 康一〕

ビニルハウス vinyl house ヨーロッパで盛んでおった施設で、おもに園芸生産に使われている。一九五二〜五三年(昭和二七〜二八)ごろビニルフィルムが日本で生産されたから急速に全国的に普及し、現在五〇〇〇軒以上になっている。

ビニルハウスは温室(ガラス室)にくらべてきわめて安い経費で建設でき、移動性もある。さらにそれに適する加温や換気装置も開発されたので、簡易に建設でき、周年利用して生産性を高めることができる。このため温室を含めた施設園芸部門は、日本農業生産の中でも近代的な企業生産にまで発展しようものとして、大きな期待がかけられている。

ビニルハウスは全国的に広がっているが、とくに冬季に日照が多く比較的温暖な太平洋

岸の暖地では、暖房の経費がわずかで済むので、ビニルハウスを利用した草花や野菜の生産はめざましく伸びた。とくに千葉・静岡・愛知・高知県などではビニルハウス面積が多い。ビニルハウスで栽培されているのは草花では、カーネーション・バラ・チュウリップ・フリージアなどの切り花のほか、シクラメン・ポットジウムなどの鉢物も多い。野菜ではキュウリ・トマト・ピーマン・レタス・セロリなどのほか、スイカ・メロンなども栽培されている。

ビニルハウスははじめ木材や竹などを骨組みとしたごく簡易な幌型・トンネル型など小型なものが多かったが、生産の規模が大きくなり、しだいに專業化してくるとハウスも大型になり、鉄やアルミのパイプを骨組みに使うパイプハウスから、さらに大型の鉄骨やアルミ材を使う鉄骨ハウスなどが建てられるようになった。このように簡易な移動型ハウスからしだいに大型の固定式になると、設備も性能のよいものが要求されるようになり、またハウス内でもなるべく手のかからない栽培が必要となってくるので、自動操作の暖房機、自動灌水装置、土壌消毒機なども導入されるようになった。

ビニルハウスはふつう〇・一リか〇・一五リ(ビニルフィルム)を使用しているが、最近ではプラスチックにガラス繊維をまぜた、硬いファイロン・ノイファンなども使われるようになってきている。 〔鶴島久男〕

ビニルペイント vinyl resin paint ビニル樹脂塗料のこと。塩化ビニル・酢酸ビニル共重合樹脂 あるいは酢酸ビニル・アクリル樹脂の共重合樹脂を用いた溶剤型塗料とビニル系単量体を水中に乳化分散して重合させたエマルジョン型塗料とがある。ビニル系樹脂は耐水性・耐薬品性・耐油性のほか耐候性などにすぐれた性質をもち、モルタル・コンクリート・プラスチック・しっくいなどの面への塗布に好ましい。一般に溶剤型の塗料は乾燥が早く、表面にピンホールなどが生ずることがないために塗膜はなめらかとなるが、下地がかなり乾燥していないと接着性に欠けるという点がある。これに対してエマルジョン型塗料は溶剤を用いないので安価で、施工中

の火災の心配はいらないが、ピンホールができてやすくなるために吸水性が大きい。一般塗装のほか耐食用としても用いられる。 〔岸谷孝一〕

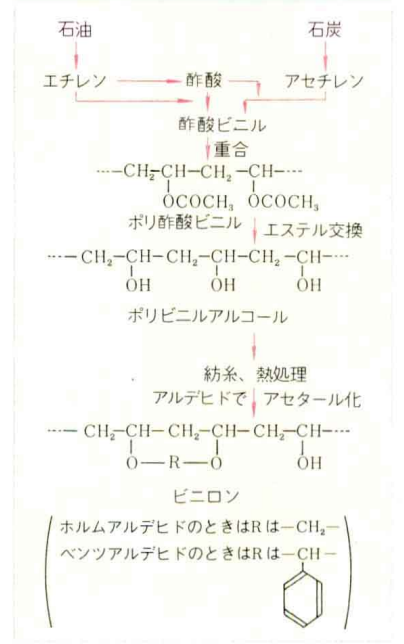
ビニロン vinylon ポリビニルアルコール系合成繊維の一般名。水溶性のポリビニル

アルコール繊維は、一九三〇年(昭和五)ごろドイツのヘルマン W.O. Hermann らの研究にもとづいて少量生産され、外科治療用繊維として用いられた。しかし、水に溶けない一般用繊維が発明されたのは日本において、友成九十九(一九三三)は倉敷絹織で、矢沢将英は鐘淵紡績でそれぞれ三五年ごろから研究に着手し、三九九年に京都大学派は合成一号の名で、鐘紡はカネビヤンの名で成功を公表。本格的な工業化を進めたのは五〇年ごろからの倉敷レイヨン・日清紡績である。それらは短繊維の製造を目的としたが、三菱レイヨンは第二次世界大戦中から長繊維の製造の研究をすすみ、最近その企業化が別社ではじまり、アメリカ・フランス・ドイツ・中国などへの技術輸出がおこなわれた。七六年の日本のビニロン年産額は三・九八万トンであった。

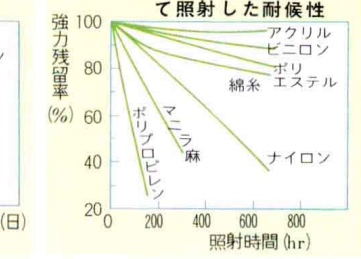
〔製造〕図Aのように、主として石油から酢酸ビニルが合成され、それは重合によりポリ酢酸ビニルになる。これをメタノールに溶かし、少量の苛性ソーダを加えて加熱するとポリビニルアルコールが容易に得られる。それを洗浄精製したのち二〜一八%の水溶液にする。凝固溶として通例は硫酸ナトリウム(Na₂SO₄)の飽和に近い溶液を用意し、その中に先の溶液を一定速度で不銹鋼でつくった口金を通して押し出して繊維の形にする(湿式紡糸法)。次に熱延伸して二〇〇〜二四〇°Cに加熱した空気中で数分間処理し、その後、切断して短繊維(ステープル)にする。アセタール化は芒硝・硫酸水溶液中にアルデ

ヒドを加えたものの中に熱処理した繊維を約一時間、五〇〜七〇°Cにつけておく。アルデヒドとしてホルムアルデヒドが多く使われるが、衣料のサージ用のためにはペンツアルデヒドも使われる。アセタール化で消失する水酸基(-OH)は通常三五〜四五%といわれる。次に水洗・油剤処理をして乾燥させるが、長繊維(フィラメント)の場合は三〇%近いポリビニルアルコール水溶液としたのち、高温に加熱した空気中に繊維状に押し出し、水分を蒸発させる(乾式紡糸法)。このように延伸・熱処理のあとアセタール化されるが、フィラメントの場合は生糸のような感触ある衣料としておもに使用されるため、空素を含む化合物を用いてアセタール化し染色性をよくする。たとえば(CH₃)₂N-CH₂CHO のようなもの

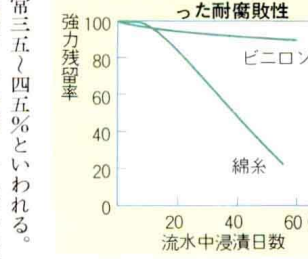
〔図A〕 ビニロン製造の化学式



〔図B〕 ウェザーメーターにて照射した耐水性



〔図C〕 流水中ではかかった耐腐敗性



たえば(CH₃)₂N-CH₂CHO のようなもの

である。

〔性質と応用〕ビニロンの三分の二は産業資材として用いられる。漁網・陸上綱・ロープ・延縄・帆布・天幕・包装材料(肥料、穀物、野菜の袋)・農業用布・コンベヤーベルト・自転車タイヤコードや複合材料としてのプラスチックの繊維用などである。それは一層当り五磅以上という高い強さ(綿三、ナイロン五)、良好な耐熱性(図B)、すぐれた耐薬品性や耐腐敗性(図C)などにもとづく。衣料としては強くて耐久性が長く保温性のよいことが特徴で、作業服・運搬服・学童用制服などに用いられる。フィラメントは丹前地・ふとん地・スカーフなどに用いられ、メリヤスもつくられる。↑合成繊維 《井本 稔

非人 ひにん もと人非人夜叉・悪鬼の類、あるいは僧侶の意。中世では僧侶から転じて半僧半俗の巫祝(祭りや神の)をつかさどる人、妖術使いのようなものをさし、さらには乞食・物もらいなどの賤民をさすようになった。中世では穢多と混称もされ、明確な身分を形成していたわけではない。近世には江戸時代賤民の一つとして一つの身分となった。非人には親代々の非人素性のものと、非人手下として、男女の不義密通や心中未遂など平民に科せられた刑によって非人身分に落とされたもの、貧困のため平民から没落したものなどがあり、それゆえ「足洗い」といって平民に復帰する道も開けていた。穢多のように皮革類などの生産的な労働に従事せず、卑俗な遊芸や物もらいの独占権の行使により生活し、あるいは罪人の送致、牢屋の見回り、死刑の手伝い、刑屍の埋葬などに従事した。江戸では四人の非人頭(浅草の善七、品川の松右衛門、深川の善三郎、代々木の久兵衛)があり、その下に多数の小屋頭があった。非人を支配した。すなわち、非人は小屋頭管理の非人小屋に居住したのである。このほか頭に属さない非人―無宿浮浪の非人を野非人と呼んだ。非人は風俗上でも差別され、非人頭・小屋頭のほか髪を束ねたり、被り物をつけたりすることができず、着物は膝までなど決められていた。一八七一年(明治四)穢多身分とともに廃止された。《小野信三

否認権 ひにんけん 破産宣告前に、破産財団

に属する財産に関してなした破産者の行為が、破産債権者に損害を加うべき場合に、その行為の効力を否認し、破産財団に対する関係で効力を失わせる破産法上の権利をいう。民法上の詐害行為取消権(債権者取消権)と同趣旨の制度である。否認権行使の一般的要件としては、破産者が受益者の利益のために登記・弁済などの行為をして、債権者に損害を加えたことが必要とされるが、否認される行為の態様の異なることによって、次のように分けられる。

(1)故意否認 破産者が行為の当時破産債権者を害することを知らずなした行為(破産法七二条一号)、(2)危殆否認 破産者の財産状態が危殆に瀕したときになされた行為(同条二三、四号)、(3)無償否認 破産者が支払停止もしくは破産申立て後、またはその六月以内になした無償もしくはこれと同視すべき有償行為(同条五号)、(4)権利変動の對抗要件の否認(同法七四号)、(5)執行行為の否認(同法七五号)、(6)転得者に対する否認(同法八三条)である。

否認権は、破産管財人が訴えの提起または抗弁によって行使しなければならぬ(同法七六条)、否認権行使の結果として、破産財団を原状に回復させる物権的效果を生じさせる(同法七七条)。

会社更生法のもとにおいても、更生手続開始決定後、会社事業の経営、財産の管理および処分権限は、管財人に専属することになる(同法五三条)が、その開始決定前、会社が不当にその財産を処分することがありうる。そこで会社更生法は、更生手続内でおこなわれる否認権について、かなり詳細な規定を設けている(同法七八―九三条)。この否認権は、その目的・性質・否認原因や否認の効力など多くの点で破産法の否認権に酷似しているが、更生の目的をよりよく達成させるために、否認権行使の方法として、訴えまたは抗弁によるのほかに、決定をもって処理される否認の請求(同法八二条)を認める点に重要な特色がある。

《内田武吉

避妊法 ひにんぼう 人為的に妊娠を避ける方法で、受胎調節の手段となるものをいう。したがって、一時的避妊法をさし、不妊法に含

まれる永久避妊法、あるいは妊娠後におこな

う人工妊娠中絶などは含まれない。*荻野学説を応用した定期禁欲法、または避妊器具や*避妊薬を用いる方法などがあるが、それぞれ一長一短がある。↓受胎調節 《野嶽幸雄

避妊薬 ひにんやく 受胎阻止のために用いる薬剤で、外用の殺精子剤と内用の経口避妊薬とがある。殺精子剤は酢酸フェニル水銀や硫酸オキシキノリン(キノゾール)などを主成分とし、坐薬・錠剤・クリーム剤・ゼリー剤などにして用いられる。精子は酸に弱いから、酒石酸・乳酸で酸性とし、また重曹を加えて水分により炭酸ガスを発生させ、精子の子宮口への侵入を防ぐものもある。坐薬や錠剤は膈内で溶けて十分に拡散してからでない効果がないので、坐薬は性交五分前ぐらい、錠剤は二〇―三〇分前に膈内へ入れておく必要があるが、時間がたちすぎたときは錠追加する。これに打ち添えてゼリー剤やクリーム剤などでは注入器を用いて膈の奥深くに入れる必要がある。近年はエゾゾールのクリーム剤もある。エゾゾールの発泡クリーム以外も、コンドームやベッサーリに塗って併用すると確実性が増す。経口避妊薬(ピル)は卵巣ホルモンのエストロゲンと黄体ホルモンのプロゲステロンの混合物で、一九五五年以来、アメリカでもおこなわれ、話題になっている。生理開始の五日めから一定量を内服すれば、卵子の生産や排卵を防止し、妊娠を避けることができるが、悪心・嘔吐・胃腸障害・出血・頭痛・抑鬱状態・乳房痛などの副作用があるので、流産や早産の防止、生理周期変更の目的に使われ、多くの諸外国で避妊の目的には使用を禁止している。専門医の指示によって用いる。↓受胎調節 《清水藤太郎

酒沼 ひぬま 茨城県中央部、東茨城・鹿島の郡界にある湖沼。周囲二二・五、面積九・五平方、最大深度三・五、水面標高三三。酒沼川下流部が那珂川の土砂(自然堤防)によってふさがれてきた。沼の水はまた流れ出て那珂川河口に注ぐ。満潮時には海水がはいり、海水魚と淡水魚がすむ。ハゼ・ボラ・ウナギ・コイ・シジミなどのほか、ニシンの漁獲が珍しがられている。釣り場として名高く、水戸からバス四五分。《桜井明俊

ブネー Alfred Binet (一八五九―一九一三) フ

ランスの心理学者。はじめ法律を学んだが、のちに精神医学者シャルコーのもとで医学的心理学を勉強し、またイギリスの経験哲学・連合心理学を読んで興味をいだき、しだいに心理学の研究にすすんだ。はじめ臨床的精神病学的心理学の立場から異常心理の研究を発表していたが、やがて正常者の心理学に移り、独創的な研究と著作に幅広い活躍を続け、一八九〇年代には長期にわたって一連の児童研究をおこなった。一九〇五年には、政府当局の要請にこたえて若い医師シモンと協力して、知恵おくれの児童を検出するための心理検査を発表したが、これが有名なブネーシモン法であり、今日ひろくおこなわれているブネー式知能検査の原型である。《辻 正三

ブネー vinegar 西洋の食酢の総称。語源的にいえばフランス語の「すっぱいぶどう酒」の意味であり、フランスでは単にブネーといえは、ぶどう酒を原料とした食酢をいう。英語では広く果実からつくった食酢を総称するが、イギリスやアメリカでは単にブネーといえは、りんご酒からつくった食酢をさす。ブネーのおもなものは次のとおり。

(1)ワインブネー ぶどう酒からつくり、製品が最高級品。(2)アップルブネー りんご酒からつくり、サイダーブネーともいう。(3)モルトブネー オオムギ麦芽を糖化させた糖液を発酵させたのち、次に酢酸発酵させたもの。(4)蒸留モルトブネー (3)の場合の発酵させているアルコールを蒸留してアルコール分だけを集め、これを薄めて酢酸発酵させたもの。いずれも西洋料理の調味料として広く用いられる。《佐藤友太郎

比熱 ひねつ 単位の質量をもつ物体の*熱容量。通常は一ダの物体の熱容量、すなわち一ダの物体の温度を一度C高めるために必要な熱量をいうが、工業方面では一ダグラムの物体の熱容量をいうこともある。熱量の単位をカロリーで表わすとき、水の比熱は1になるが、この値は水素などの一部を除いて例外的に大きく、水が多くの物質のなかで温度変化をおこしにくい物質であることを示す。一般に物体の比熱は温度によって変化する

固体の比熱	
固体	比熱 (20°C)
水	0.487 (0°C)
アルミニウム	0.211
燐 (赤)	0.190 (9°C)
燐 (黄)	0.177 (9°C)
硫黄 (斜方)	0.176 (15~96°C)
珪素	0.17
炭素 (石墨)	0.167
炭素 (ダイヤモンド)	0.121
鉄	0.107
亜鉛	0.0925
銅	0.0919
銀	0.0560
錫	0.0541
白金	0.0316
白金	0.0309

液体の比熱	
液体	比熱 (20°C)
水 (100°C)	1.0074
食塩水 (4%)	0.951
アルコール (メチル)	0.59
グリセリン	0.58
アルコール (エチル)	0.577
アセトン	0.516
アニリン	0.496
ベンゼン	0.415
水銀	0.333

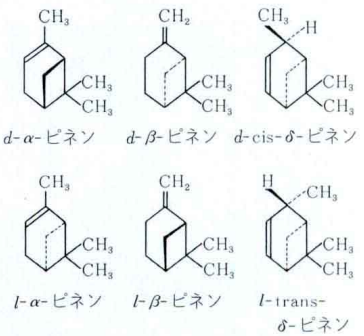
気体の比熱		
気体	定圧比熱 c_p	比熱の比 c_p/c_v
水素	3.39 (0°C)	1.41
アンモニア	0.514 (14°C)	1.309
硫化水素	0.253 (15°C)	1.32
窒素	0.247 (16°C)	1.405
酸素	0.2399 (16°C)	1.403
空気	0.2203 (16°C)	1.40
炭酸ガス	0.20 (16°C)	1.302
亜硫酸ガス	0.152 (15°C)	1.39
塩素	0.115 (15°C)	1.36

保つて加熱するときでは値が異なり、後者のほうが大きい。これは圧力を一定に保つ場合には、熱の一部が気体の膨張という外部への仕事に費やされてしまい、温度を高めるのにそれだけ余分の熱を加えなければならぬことによる。ふつうこの場合の比熱を定圧比熱 (c_p) といい、これに対して体積を一定に保ったときの比熱を定積 (定容) 比熱 (c_v) という。 c_p と c_v がこのように異なる値をもつ理由は、*ドルトンによって早くから指摘されており、マイヤー J. R. Mayer はこの事実を基礎にして熱の仕事当量を導きだした。理論的な計算によれば気体の c_p と c_v との差は、約 $2/M$ (M はその気体の分子量) になるが、この値は常温・常圧のもとではほぼ正しいこ

とが確かめられている。なお、厳密には液体や固体についても c_p と c_v との区別をしなければならぬが、液体や固体では熱膨張を押えて体積を一定に保つことはむずかしく、また、両者の差はごくわずかと考えられるので、ふつうは定圧比熱をその物体の比熱としている。
 【分子熱】比熱に分子量を掛けたもの。すなわち 1 モルの物体の熱容量を分子熱、あるいはモル比熱という。その値は、分子が一個の原子からなる一原子分子では約 3 cal/deg という値、酸素・水素など二個の原子からなる二原子分子では約 5 cal/deg という値 (定積比熱) をもち、定圧比熱はこの値より約 2 cal/deg ずつ大きくなるのが実験的に知られている。また、比熱に原子量を掛けたもの、すなわち 1 グラム原子に対する熱容量を原子熱とい、固体元素のほとんどはその値が約 3 cal/deg になることが知られている。これは*デユロン・ジュペティ A. T. Petit が実験の結果一八一九年に発表したもので、デユロン・ジュペティの法則として原子量の推定に利用されている。
 気体の分子熱、および固体の原子熱が物質の種類によらず一定値を示すのは、古典統計力学によってその理由が明らかにされている。統計力学の立場では、物体が得る熱は物体を構成する多数の分子に一樣に配分されると考えているので、 1 モルという同数の分子を含む物体の熱容量は必然的に一致することになる。一原子分子が二原子分子よりも分子熱が小さいのは、両者のエネルギーの配分のされ方に違いがあり、二原子分子では分子を構成する二つの原子間の振動・回転にもエネルギーが配分されるために、一原子分子よりも分子熱が大きくとされる。また、固体元素の原子熱は、原子の運動エネルギーのほかに原子の相互作用による位置エネルギーを考慮することによって、その値が約 3 cal/deg になることが導かれる。
 以上のように気体の分子熱、固体の原子熱に関する経験的な法則は、古典統計力学から理論的に導かれるが、二〇世紀以後、これらの法則は低温の領域では成立しないことが明らかとなった。すなわち、固体の原子熱は、

低温ではデユロン・ジュペティの法則からはずれて減少し、絶対零度でゼロになることが予想される。この問題は*アインシュタインによって注目され、固体の比熱の問題に量子論を適用することによって、その理由が解明された。それによれば、固体の各原子は同じ固有振動数をもって運動するが、その振動エネルギーが連続的な値をとらず、光の場合と同様に量子化されて不連続な値をもつとすると、低温において固体の原子熱が減少する事実が説明できることになる。このアインシュタインの比熱の理論は、その後*デ바이によって修正され、より実験結果と合致する理論 (デバイの固体比熱の理論) に発展したが、統計力学が古典統計力学から量子統計力学へと脱皮する過程として、重要な意義をもっている。 *馬淵昭夫
 ⑤ specific heat ⑥ chaleur spécifique
 ⑦ spezifische Wärme
 ピネロ Arthur Wing Pinero (一八五〇—一九一〇) イギリスの劇作家。ロンドン生まれ。弁護士見習から俳優になり、のち劇作家に転じた。はじめ笑劇や感傷的な作品を書いていたが、『道楽者』(一八九七)で、イブセンふうの問題劇に手を染め、暗い過去をもつ女性を主人公にした『二度目のタンカレー夫人』(一九〇三)の大当りでロンドン劇壇に新風を吹きこんだ。個人と社会の葛藤については問題提起にとどまることが多いが、写実的な手法と巧みな構成、観客の問題意識を先取りする判断力によって、イギリス近代劇に果たした先駆的役割は大きい。多作家で生涯に約五〇編の戯曲を書いた。 <中野里皓史>
 ピネン pinene モノテルペン類に属する炭化水素の一種。分子内に二つの環構造と一つの二重結合をもっているが、その二重結合の違いによって図のように三種の位置異性体とそれぞれの光学異性体が存在する。分子量一三六・二四。いずれも水には溶けないが、エチルアルコール・エーテル・ベンゼンなどの有機溶媒に溶ける。 α -ピネンは d 形・ l 形ともテレピン油の主成分となっているほか、針葉樹の精油をはじめ他の精油中に広くかつ多量に分布している。融点零下五五度C、沸

ピネンの異性体



太線は六員環より手前側に出ている結合を示し、点線は向こう側に出ている結合を示す

点一五六度C、比重〇・八七。無色の液体。特異な快香をもつ。塗料の溶剤、樟腦の合成原料などに使われる。 β -ピネンは α -ピネンと共存するが、その量は少ない。融点零下五〇度C、沸点一六五度C、比重〇・八七。無色の液体。 δ -ピネンは天然には存在しないが、それぞれ d -イソボルネンおよび d -ピノカンフェオールのトシラートから合成される。 d -シス異性体は沸点一五九〜一六一度Cで無色の液体。 l -トランス異性体は沸点一五七〜一五八度Cの無色の液体。 <広田 穰>
 非粘結炭 ひねんけつたん 石炭を乾留・燃焼させる場合に、石炭粒子がお互いに軟化溶解せず粘結しない石炭をいう。亜炭、褐炭、瀝青炭の一部、無煙炭など、大部分の石炭は粘結しないので、これに属することになるが、一般に非粘結炭という前記の瀝青炭の一部をいう。すなわち狭義には、瀝青炭のうちで石炭化度が高かつとも低く粘結しない石炭をいう。世界的に広く産出するが、日本では北海道石狩炭田の美唄炭、九州筑豊炭田の高松炭などが代表的。一般に、水分は五%、揮発分四五%程度、純炭発熱量は七三〇〇〜七八〇〇キカロリー毎キログラムで、無灰炭の炭素含有量は七八〜八〇%程度。着火性・燃焼性が良好なので、主として一般燃料用に、またガス発生炉用として用いる。 <木村英雄>
 日野(市) ひのし 東京都の西部、八王子市と立川市の間にある衛星都市。工業・住宅都市で、一九六三年(昭和三八)市制施行。国電中央線・京王帝都京王線が通じる。昔は多摩郡石津郷飛火野と呼ばれていた地で、江

戸時代は多摩川の渡河点にあたる甲州街道の宿駅として発展した。現在、地域の北西部に日野自動車・小西六写真工業などの工場群や多摩平団地などがある。近年は住宅地化がいちじるしい。観光地に百草園・高幡不動・多摩動物公園・多摩テックなどがある。人口一、二万六八四七。
 〔沢田 清〕

日野(町) ひのちやう 滋賀県南東部、蒲生郡にある町。一八八九年(明治二二)町制施行、一九五五年(昭和三〇)東桜谷・西桜谷・西大路・鎌掛・南比都佐・北比都佐の六村と合併。鈴鹿山脈西麓にあり、近江鉄道が通じる。中心の日野は安土桃山時代に蒲生氏の城下町としておこる。江戸時代日野商人は椀・売菜などの行商で知られ、今も売菜を主とする商工業が盛ん。旧村は米作を主とする農村。鎌掛谷のホンシヤクナゲ群落は天然記念物。人口二万〇九一三。
 〔木村憲治〕

日野(町) ひのちやう 鳥取県西部、日野郡にある町。一九五九年(昭和三四)根雨・黒坂両町が合併して成立。伯備線が通じる。開発は古く、古墳も散見される。黒坂は関氏五万石の城下町、根雨は出雲往來の宿場町として発達、のち郡の政治や文教の中心地。葉タバコや和牛・林産で知られ、長楽寺や鶴ノ池付近一帯は奥日野県立公園の一部。人口六三六二。過疎化がいちじるしい。
 〔岩水 実〕

火野葦平 ひのあしへい (一九〇六―) 小説家。本名玉井勝則。福岡県の生まれ。早稲田大学英语文科中退。在学中に丹羽文雄らと同人雑誌『街』を創刊、習作を発表していたが、中退後は郷里で父業の石炭請負業(沖仲仕親分)に従事し、労働組合を組織してストライキの



指揮をしたこともある。一九三七年(昭和一二)発表の『糞尿譚』で芥川賞を受賞、翌年中国戦線での従軍記『麦と兵隊』で一躍流行作家となり、戦争文学の作家として注目された。つづいて『土と兵隊』(一九三三)、『花と兵隊』(一九三六)の三部作を完成したが、いず

れも庶民的感情にもとづく一兵士の記録として明朗闊達な風格がある。第二次世界大戦後は戦争協力のかどで一時的に追放されたが、『赤道祭』(一九五〇)、『花と竜』(一九五三)、終戦後の苦悩を告白した『革命前後』(一九六〇)などを発表、庶民生活の中に題材を求めた社会小説の風俗小説に特異な境地を示した。〔村松定孝〕

被霊類 ひのうらい 原素動物・尾索類の別称。尾索類。
丙午 ひのえうま 宿曜雑曆から発展した俗信。古代の中国では、年月や日を数えるのに、十干と十二支の組合せを使っていたが、五行説が生まれるに及んで、十干十二支を五行(木火土金水)に配し、複雑な運勢曆ができた。五行を兄と弟に分けて十干を順にあらはめると、火の兄が丙になり、十二支を組み合わせて六一年めに同じ干支の年がくる。中国では、北宋代の末から、丙午を凶歳とする説が強まったが、これが日本にも伝わり、江戸時代に下級宗教者の手で村々に広まる間に、丙午の女は夫を食ら殺すなどの迷信を生んだ。近來、これを心から信じる者は少なくなったが、丙午にあたる一九〇六年(明治三九)、六六年(昭和四一)は、ともに出生届が急減している。
 〔井之口章次〕

檜枝岐(村) ひのえまた(むら 福島県南西端、南会津郡にある隔絶山村。檜枝岐本郷は沼田街道に沿う街村。檜枝岐川に沿って小平地が点在し、嫁郷・麒麟手・広窪などの出作集落があり、ソバは特産。標高八〇〇メートル以上で北端に四〇何ほどの水田があるだけ。大部分は駒ヶ岳(二一三二メートル)などの高山で国有林で占められる。村営林業所で林産加工をおこなひ、へら・しゃくしなどをつくる。日光国立公園の燧岳・尾瀬沼や奥只見ダムがある。古い習俗や伝承を保存し檜枝岐歌舞伎は有名。人口八二七。
 〔安田初雄〕

檜尾僧都 ひのおのそうず 平安初期の真言宗の僧実慧の通称。〔実慧〕
日之影(町) ひのかげ(ちやう) 宮崎県北部、西臼杵郡にある町。一九五一年(昭和二六)七折・岩井川両村が合併して町制施行。五六年岩戸村見立地区を編入。高千穂線が通じ

る。山林原野が全体の八八%、耕地は三%、就業人口の四四%は農業、一〇%は林業。北部の見立の錫鉱山は休業中。傾山一帯は祖母傾国定公園。人口八七一五。
 〔下村数馬〕

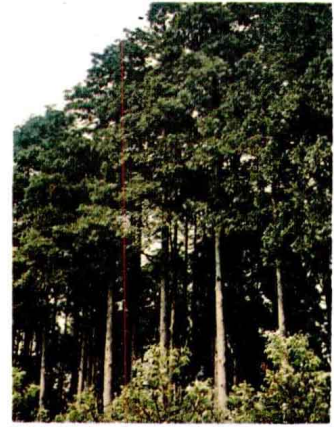
供給にも利用する計画が進行中。〔吉川文次〕
日野川 ひのがわ 滋賀県南東部、綿向山(一〇〇〇メートル)南麓に源を発し、蒲生町で佐久良川を合わせ、西流して近江八幡市で琵琶湖に注ぐ。延長四二・六キロ。中流域は蒲生野の一部で、丘陵間を開析し、下流域では湖畔に広い沖積平野をつくる。
 〔木村憲治〕

日野川 ひのがわ 鳥取県西部、中国山地の三国山や道後山に発し、米子市皆生で美保湾に注ぐ。長さ八〇キロ。直線状旧流路は、第四紀初頭の大山火山の噴出で北西に曲げられ、岸本以北に微扇状地状沖積平野の米子平野を形成、平野面上に西遷の旧河道跡を残す。上流の谷頭浸食部では、日野高原面の谷底を削って名勝石霞溪などの峡谷をつくり、県営多目的普及ダムや素盞鳴尊の大蛇退治の伝承地船通山とともに奥日野県立公園を構成する。
 〔岩水 実〕

日野間道 ひのかんどう 名物裂の一つ。足利義昭につき、織田信長と戦って敗れ、のち刺髪し、茶を利休にまなんだ日野輝資の愛好裂と伝える。経糸は白木綿、緯糸には白木綿のほか黄・赤・紫の絹糸を用いて横縞の模様をあらす。縞がよるほど独特の風合いをみせられる。横縞は三〇三・六センチの幅でくり返され、絹緯糸は経二本にまたがる。木綿には強い乙燃がほどこされる。これを縦縞とする説もあるが、前田家伝来裂では縞耳がみとめられ、縞は横であることが判明した。
 〔西村兵衛〕

日野川 ひのがわ 福井県中央部、滋賀・岐阜・福井三県境付近にある三国ヶ岳・笹ヶ峰に源を発し、今庄・武生を経て、福井市西方で足羽川をあわせたのち、九頭竜川に合流する。川。長さ六五キロ。
 九頭竜川支流の一つで武生盆地灌漑の根幹をなし、多くの用水路に分ける。上流に広野ダムを建設し、農業用水・工業用水の

る。山林原野が全体の八八%、耕地は三%、就業人口の四四%は農業、一〇%は林業。北部の見立の錫鉱山は休業中。傾山一帯は祖母傾国定公園。人口八七一五。
 〔下村数馬〕



ヒノキ [上]植林 [下]枝の上に木質の球果を群生する





ピノキオ ピノキオは金貨をもらって家に帰る途中、うしろにキツネとネコに出会う。イタリア、S.E.I.版より

○一五〇センチとなるが、大きなものは高さ五〇センチ、胸高直径二・五センチとなる。樹冠は密な卵形をなす。樹皮は赤褐色で外面は灰色を帯び、縦に裂ける。葉は鱗状で交互対生する。雌雄同株。四月に開花する。雄花は多数つき、広楕円形で紫褐色をなし、黄色の花粉をだす。雌花は紅紫色で枝の先端につく。球果はほとんど球形で径八〜一二センチ、はじめは緑色、熟すと赤褐色となる。種子は卵形で左右に翼がある。本州（福島県以南・四国・九州）の山地に天然分布するが、広く植林され、木曾地方産のヒノキは著名である。一九六八年（昭和四三）末の統計によると、日本の植林面積は七万七〇一〇ヘクタールに及び、スギに次いで第二位を占めている。山の中腹のやや乾燥ぎみのところに植えればよく育つが、細い枝が出たら早くから枝打ちをしないと、材に節となつて残るので注意を要する。

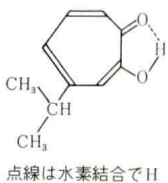
材は木理は通直、緻密で狂いが少ない。堅さは中位で加工しやすく、表面の仕上げはきわめて良好で、光沢があり、かおりの良い。保存性が高く、よく水湿にも耐え、比重は〇・四四で軽く、日本建築としては第一位の材である。建築材・土用材・船舶材・車両材・彫刻材その他用途が広い。木は庭園樹・盆栽・生け垣などに使われる。 （林 弥栄）
ヒノキ科 Cupressaceae 常緑針葉高木 または低木。樹皮はふつう縦に長く裂け、繊維質である。葉は対生して十字形あるいは三

個輪生し、成木では通常鱗片状をなし、稚苗のころは短い針形である。ビャクシン属では針葉だけのものもある。雌雄同株であるが、ビャクシン属の多くは雌雄異株。花は短い小枝の先端につき、ときには腋生する。鱗片は対生または輪生する。球果は木質、種子には翼があるが、ビャクシン属の球果は液質で、種子は翼をもたない。世界に約一七属一五〇種を産し、北半球に多いが、南半球のオーストラリア・アフリカにも分布している。著名な樹木にアスナロ・サワラ・イトスギ・イブキなどがあり、建築材・家具材として、また観賞用に栽培されている。 （林 弥栄）

ピノキオ Pinocchio イタリアの作家コロロディの童話『ピノキオの冒険』（一八八〇）の主人公。指物師ジェベットの、一本の新からあやつり人形をつくってピノキオと名づける。できあがった時から腕白のいたずら小僧で、ジェベットが寒空に上着を売って買ってきた読本をかえ、学校に行く道で、小屋がけの人形芝居に気をひかれて見物してしまふ。ピノキオは身の上を聞かれた芝居の親方に、金貨を五枚もらうが、家に帰る途中、悪いキツネとネコにだまされ、しかも命までねらわれる。危機一髪のところを、青い髪の毛の仙女に助けられ、働きバチの島で一度は学校の冒険にあう。最後にクジラにのまれたジェベットを救い出し、よい子になるという興味と教訓に富んだ物語。一八八〇年から『児童新聞』に『あやつり人形物語』の題で連載、当時から絶賛を博した。 （岩崎純孝）
ピノキオの冒険（岩波少年文庫）

榎 榎（ひのき）の一種。ヒノキなどの経木を材料とし、網代に組んでつくった笠。ヒノキガサ・ヒノキダマというほか、アジロガサなどよばれる。古く大和国（奈良県）大峰の修験者が着装した。円錐形で、大きく四〇センチ前後、高さ一四センチ。晴雨兼用で、主として男子が着用。その分布は近畿・中部地方を中心として四国・中国の一部、また関東の山間部に及んでいる。 （宮本瑞太）
ヒノキチオール hinokitiol トロポロン置換体の一つ。β-ツヤプリシンあるいは4-

イソプロピルトロポロンともいう。タイワンヒノキ・ニオイヒバ・アスナロなどのヒノキ科植物やビャクシンなどの精油中に存在する。野副鉄男らによって、はじめにタイワンヒノキから分離されたので、ヒノキチオールの名があたえられた。分子量一六四・二一、融点五二〜五二・二度C、沸点一四〇〜一四一度C（水銀柱一〇ミリ）、比重一・〇九七（一六度C）。分子中に芳香性を示す七員環をもつので有名。無色の結晶。水には一〇〇倍、エチルアルコール・エーテルなどの有機溶媒によく溶ける。↓トロポロン （広田 穂）



ピノキオ Pinocchio イタリアの作家コロロディの童話『ピノキオの冒険』（一八八〇）の主人公。指物師ジェベットの、一本の新からあやつり人形をつくってピノキオと名づける。できあがった時から腕白のいたずら小僧で、ジェベットが寒空に上着を売って買ってきた読本をかえ、学校に行く道で、小屋がけの人形芝居に気をひかれて見物してしまふ。ピノキオは身の上を聞かれた芝居の親方に、金貨を五枚もらうが、家に帰る途中、悪いキツネとネコにだまされ、しかも命までねらわれる。危機一髪のところを、青い髪の毛の仙女に助けられ、働きバチの島で一度は学校の冒険にあう。最後にクジラにのまれたジェベットを救い出し、よい子になるという興味と教訓に富んだ物語。一八八〇年から『児童新聞』に『あやつり人形物語』の題で連載、当時から絶賛を博した。 （岩崎純孝）
ピノキオの冒険（岩波少年文庫）

榎 榎（ひのき）の一種。ヒノキなどの経木を材料とし、網代に組んでつくった笠。ヒノキガサ・ヒノキダマというほか、アジロガサなどよばれる。古く大和国（奈良県）大峰の修験者が着装した。円錐形で、大きく四〇センチ前後、高さ一四センチ。晴雨兼用で、主として男子が着用。その分布は近畿・中部地方を中心として四国・中国の一部、また関東の山間部に及んでいる。 （宮本瑞太）
ヒノキチオール hinokitiol トロポロン置換体の一つ。β-ツヤプリシンあるいは4-

れたのが八咫鏡で、伊勢神宮に祭る。天孫降臨ののち、神武天皇が天道根命を紀伊國造とし、名草郡毛尾の浜宮にこの神を祭らせたのが当社の起原。垂仁天皇のとき現在地にうつされたと伝える。古来、伊勢神宮に次ぐ尊貴の宮とされ、紀伊国（和歌山県）一宮であったが、神階神位は伊勢同様うけなかつた。中世には衰微し、豊臣秀吉の社領没収でさらに衰えたが、江戸時代に紀州藩主が復興。旧官幣大社。例祭九月二六日。 （鎌田純一）
日野熊蔵 ひのくまぞう（八六〜一九〇〇）陸軍将校。熊本県出身。日本における飛行機の初飛行者。佐倉の歩兵連隊から臨時軍用気球委員会にはいり、一九一〇年（明治四三）*徳川好敏とともにヨーロッパに派遣されて飛行機操縦を習得、フランスのファルマン型一機を購入して帰国した。その年の二月九日、代々木練兵場において徳川と共同して初飛行に成功。以後福岡歩兵連隊大隊長・十条火薬製造所長などを歴任した。 （完倉壽郎）
火の車 ひのくるま 経済的にひじょうに苦しいことのため。語源は仏教語「火車」で、極悪人を地獄に運ぶ、火の燃えさかいた車。その車に乗ったように苦しい生活ということから車に乗ったよう。江戸語らしく、『歌舞伎十八番集』に、「然も貧といふ虫だ。その虫に身代を食ひたほされ、内証は火の車だげな、業晒しめ」とある。 （桜井光昭）
種酒（ひのき） 狂言の曲名。太郎冠者狂言。主人が、太郎冠者（シテ）には米蔵、次郎冠者には酒蔵を預け、蔵を離れないで番をするように言いつけて出かけて行く。一人いりるさびしさに次郎冠者は壺をあけ酒を飲みはじめ。太郎冠者がこれを見てしきりにうらやましがるので、次郎冠者は壺を米蔵にかけ渡して酒を注ぎ、飲ませるが、壺で飲むのもどかしくなった太郎冠者が酒蔵へ行き、兩人いっしょに酒盛りをしているところへ主人が帰宅し、二人を追い込む。以上は和泉流の筋で、大蔵流では二人を別の蔵に閉じ込めて行くので、両冠者は窓越しの酒宴を楽しむ。シテ柱越しに本舞台から橋懸りの松へ壺を渡し酒を飲ませる着想は奇抜。 （小林 豊）
ひのし「火熨斗」布の織を伸ばす道具で、金属製の炭火を入れる器に柄を付けたもの。

榎 榎（ひのき）の一種。ヒノキなどの経木を材料とし、網代に組んでつくった笠。ヒノキガサ・ヒノキダマというほか、アジロガサなどよばれる。古く大和国（奈良県）大峰の修験者が着装した。円錐形で、大きく四〇センチ前後、高さ一四センチ。晴雨兼用で、主として男子が着用。その分布は近畿・中部地方を中心として四国・中国の一部、また関東の山間部に及んでいる。 （宮本瑞太）
ヒノキチオール hinokitiol トロポロン置換体の一つ。β-ツヤプリシンあるいは4-